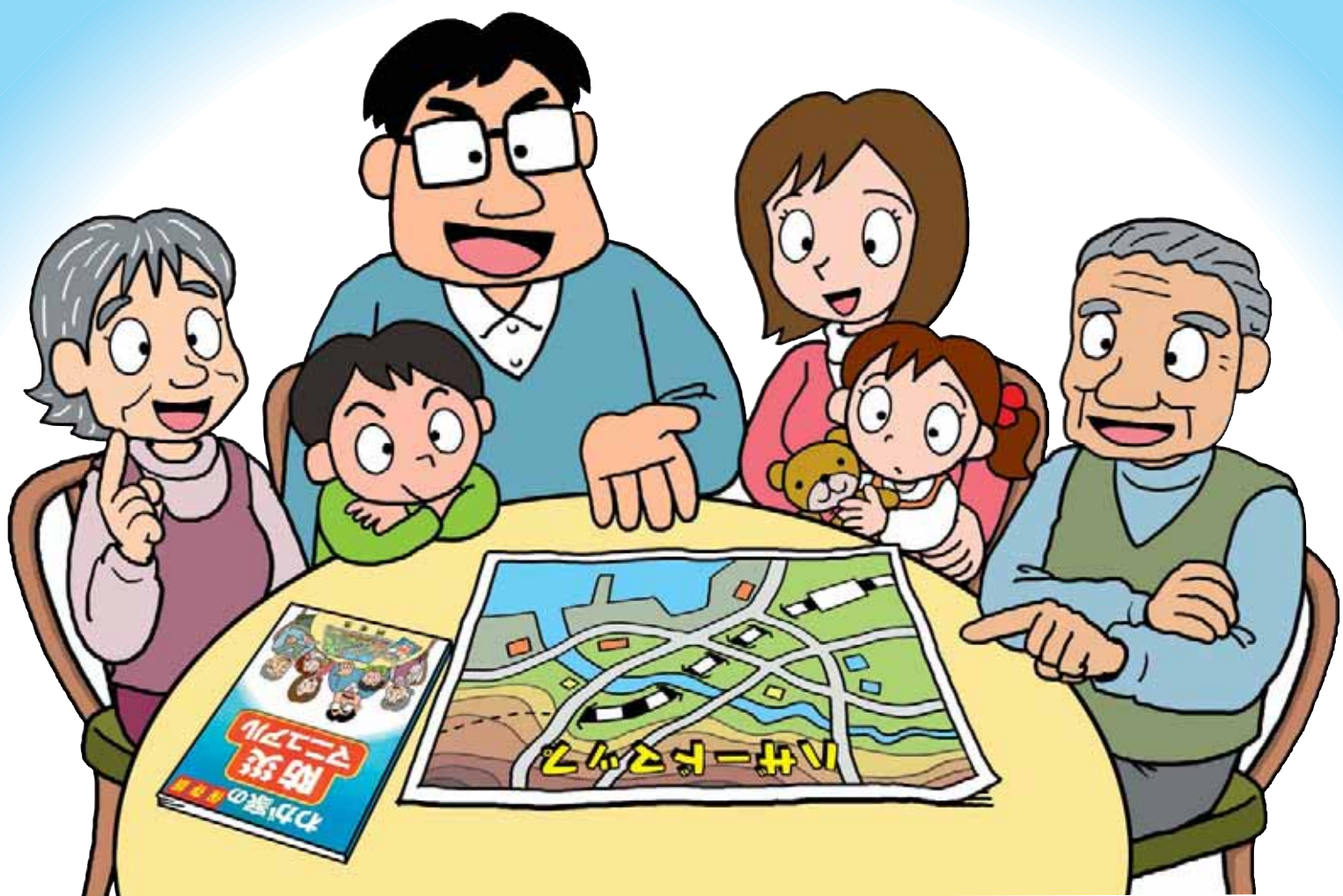


わが家の保 存 版

防災 マニュアル



熊 本 市



熊本市長
幸山 政史

ごあいさつ

市民の皆さまには、日頃から市政に対する多大なご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、皆さまご存知のとおり、平成23年3月11日午後2時46分に発生しました東日本大震災は、マグニチュード9.0という、これまでに経験したことのない巨大地震であり、この地震に伴う大津波によって東北地方の沿岸部は甚大な被害を受けました。

本市におきましても、過去に、明治22年の熊本地震や、昭和28年の白川大水害、平成3年の台風19号、平成11年の台風18号などの大規模な災害を経験しました。

いつどこで発生するかわからない災害に対して、市は様々な防災・減災の方策を講じていますが、災害に迅速に対応し、被害を最小限に止めるためには、市民の皆さま自らが常日頃の防災意識を高めていただくとともに、自主防災クラブをはじめ、地域の方々の連携やお互いを助け合う地域防災力の強化が特に重要であると考えております。

この冊子は普段からの自然災害等に対する知識と備え、いざという時の迅速な対応に役立つよう作成しました。

日頃からご家庭などで防災について話し合っただき、ご家庭や地域における防災対策に、ぜひご活用いただきたいと願っております。

平成23年8月

もくじ

地震対策

- 危機意識を忘れずに大地震に備えましょう……1
 - 熊本市の直下にも活断層が存在する
- 地震が起きたらどうするか？……2
 - 屋内にいたら／屋外にいたら／●学校・勤務先では
- 家の内外の危険箇所をチェックしましょう……4
 - 屋内／内外の危険箇所をチェックしましょう
 - 家具の転倒・落下を防止しましょう
 - 家族で防災について話し合いましょう
- 地震の正しい知識を身につけましょう……6
 - 地震発生のしくみ
 - 地震の揺れと被害想定
 - 全国で想定されている大地震

津波対策

- 津波の危険から身を守りましょう……8
 - 熊本市でも過去に津波災害がありました！
 - 津波はどのように襲ってくるのか
 - 津波はこんなところに注意！
 - 津波から命を守る対応チャート
 - 津波から避難する3つのポイント
 - 津波予報の種類
 - 津波災害における熊本市避難判断基準

風水害対策

- 風水害に備えましょう……11
 - 豪雨・台風が引き起こす災害
- 集中豪雨から身を守りましょう……12
 - 集中豪雨の危険を知っておきましょう
- 土砂災害から身を守りましょう……13
 - 土砂災害に注意しましょう
 - 土砂災害の種類と前兆現象
 - 「土砂災害警戒情報」をご存知ですか？
 - 土砂災害における熊本市の避難情報について
- 台風から身を守りましょう……15
 - 雨風が強まってきたときは
- 高潮から身を守りましょう……17

火災対策

- 火事だ！ そのときどうする……18
 - 火元別の消火方法を覚えておきましょう
 - 消火器の使い方を覚えておきましょう
 - 住宅用防災機器を活用しましょう

自主防災

- 地域ぐるみで支え合いましょう……20
 - 自主防災クラブに参加しましょう
- 災害時要援護者にやさしいまちづくりを……21

応急手当

- いざというときの応急手当……22
 - 出血がひどかったら
 - 骨折の疑いがあったら
 - やけどをしたら
 - 脳を守る5つのポイント

非常持出品

- 準備しておきたい非常持出品は？……24
 - 非常持出品／非常備蓄品
 - 非常持出品チェックリスト

避難の仕方

- 避難するときの注意点……26
 - 避難に対する基本的な考え方
 - 避難に関する3つの情報
 - 避難情報を確実に入手しましょう
 - 安全に避難するために

ハザードマップ

- 洪水・高潮・地震ハザードマップの解説……28
 - 洪水ハザードマップ
 - 高潮ハザードマップ
 - 地震ハザードマップ

防災情報

- 防災情報の入手方法を知りましょう……56
 - 熊本市災害情報メールとは
 - その他の防災情報アクセス一覧
- 緊急時のテレホンガイド……57
 - ライフライン関連機関一覧
- 防災関係機関一覧……裏表紙
 - 家族の緊急連絡先／避難場所
 - 親せき・知人の連絡先／家族の救急用データ

地震対策

危機意識を忘れずに大地震に備えましょう

熊本市の直下にも活断層が存在する

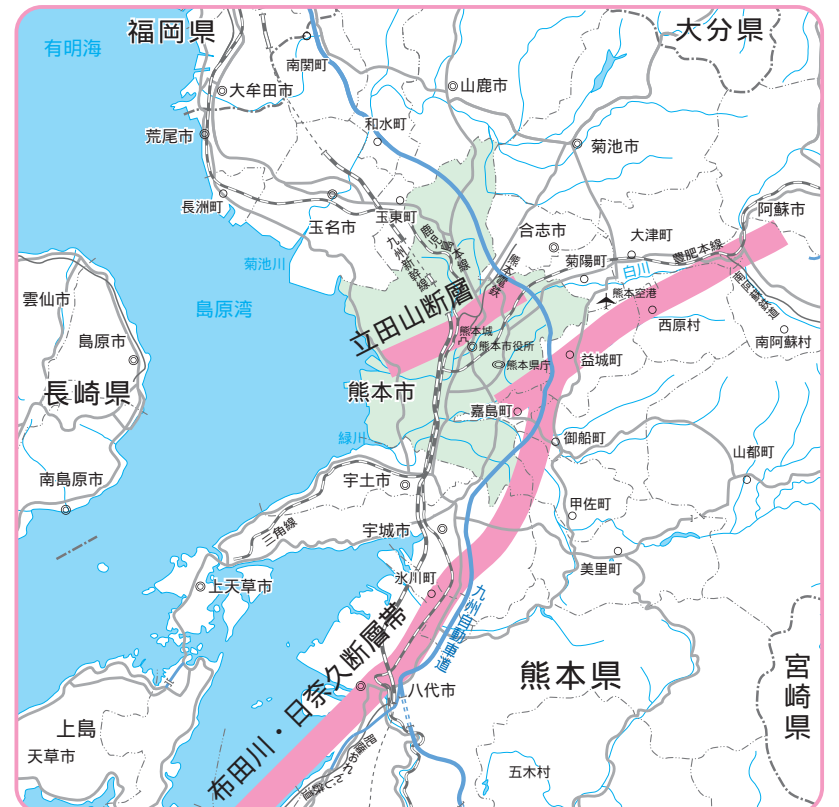
熊本市の地下には、市内直下を走る「立田山断層」と益城町付近を走る「布田川・日奈久断層帯」という2つの断層があります。このうち立田山断層は、1889年(明治22年)の熊本地震との関係も指摘されています。

これらの断層では震度5弱～6強の地震が発生する可能性があり、大きな被害が予測されます。(52～55ページ参照)

■想定地震の概要

項目	立田山断層	布田川・日奈久断層帯(北東部～中部)
地震のマグニチュード(M)	6.5	7.2～7.6
断層の長さ(L)	15.0km	74.0km
震度	5弱～6強	5弱～6強

■想定震源断層位置



■熊本県に被害を及ぼした主な地震

西暦(和暦)	地域(名称)	マグニチュード(M)	主な被害
1619.5.1(元和5)	肥後・八代	6.0	麦島城はじめ公私の家屋に被害。
1625.7.21(寛永2)	熊本	5～6	熊本城の火薬庫爆発。天守付近の石壁、城中の石垣に被害。死者約50。
1707.10.28(宝永4)	(宝永地震)	8.4	死者20,000、家屋全壊60,000、同流失20,000。
1723.12.19(享保8)	肥後・豊後・筑後	6.5	肥後で死者2、負傷者25、家屋倒壊396。
1769.8.29(明和6)	日向・豊後・肥後	7.3/4	延岡城・大分城で被害大。熊本領内でも死者1、家屋倒壊115。
1792.5.21(寛政4)	雲仙岳	6.4	眉山が崩れ、津波が生じた。津波による被害。肥後3郡計：死者4,653、負傷者811、家屋流失2,252。天草18か村：死者343、家屋流失725。
1854.12.24(安政1)	(安政南海地震)	8.4	安政東海地震、伊予西部の地震被害と重なり区別が難しい。死者6、家屋全壊907。
1889.7.28(明治22)	熊本	6.3	熊本市付近で被害大。死者20、負傷者54、住家全壊239。
1941.11.19(昭和16)	日向灘	7.2	死者2、負傷者7、住家・非住家全壊19。
1946.12.21(昭和21)	(南海地震)	8.0	死者2、負傷者1、住家全壊6。
1975.1.23(昭和50)	阿蘇山北縁	6.1	一の宮町三野地区に被害集中。負傷者10、住家全壊16。

(地震調査研究推進本部資料より)

地震対策

津波対策

風水害対策

火災対策

自主防災

応急手当

非常持出品

避難の仕方

ハザードマップ

防災情報

地震が起きたらどうするか？

大きな地震が発生したら、冷静に対応するのは難しいもの。しかし、一瞬の判断が生死を分けることもあります。地震が起きて「あわてず、落ち着いて」行動するために、以下の行動パターンを覚えておきましょう。

地震発生

- 落ち着いて、自分の身を守る
- 火の始末はすばやく
- ドアや窓を開けて、逃げ道を確保する



緊急地震速報

強い揺れ(震度5弱以上)が始まる数秒から数十秒前に、テレビやラジオなどで「もうじき揺れること」を知らせてくれます。ただし、震源に近い地域では、強い揺れに間に合わないことがあります。

1～2分

- 火元を確認、出火していたら初期消火
- 家族の安全を確認
- 靴をはく
- 非常持出品を手近に用意する

津波、山・がけ崩れの危険が予想される地域はすぐ避難

3分

- 隣近所の安全を確認
特に一人暮らし高齢者など災害時要援護者がいる世帯には積極的に声をかけ、安否を確認する。
- 余震に注意

5分

- ラジオなどで情報を確認
- 電話はなるべく使わない
- 家屋倒壊などの恐れがあれば避難する

5～10分

- 消火・救出活動
隣近所で協力して消火や救出を。あわせて消防署等へ通報する。

10分～数時間

- 生活必需品は備蓄でまかなう
- 災害情報、被害情報の収集
- 壊れた家には入らないこと
- 引き続き余震に警戒する

～3日くらい

避難生活では

- 自主防災クラブ等を中心に行動を
- 集団生活のルールを守る
- 助け合いの心を

助け合い



check ノート

地震発生時、電話(固定・携帯)がつかないケースがあります。家族の安否確認の方法をいくつか決めておきましょう。

- ☐ 災害伝言ダイヤル「171」
- ☐ 携帯電話の災害用伝言板
- ☐ パソコンのメール
- ☐ 携帯電話のメール
- ☐ その他()

屋内にいたら

家の中

- 大きな揺れを感じたら、テーブルの下に隠れ、身を守ることを最優先に。
- 無理をして火を消そうとしない。
- 裸足で歩き回らない(ガラスの破片などでけがをする)。
- 乳幼児や病人、高齢者など災害時要援護者の安全確保を。



エレベーターの中

- 地震時管制運転装置がついているエレベーターは、自動的に最寄りの階に停止するので、停止した階で降りる。装置がついていなければ、すべての階のボタンを押し、停止した階で外に出る。
- 閉じ込められたとき、非常ボタンやインターホンで連絡を取り、救出を待つ。



デパート・スーパー

- ショーケースの転倒、商品の落下、ガラスの破片に注意。衣類や手荷物で頭を守る。
- 店員の指示に従って落ち着いて行動する。



劇場・ホール

- 座席の間にうずくまり、カバンや衣類で落下物から頭を守る。
- 頭上に大きい照明などがある場合には、その場から移動を。
- 係員の指示に従い、冷静な行動を。



集合住宅

- ドアや窓を開けて逃げ道を確保する。
- 避難にエレベーターは絶対使わないこと。



屋外にいたら

路上

- ブロック塀や自動販売機などから離れる。
- 倒れそうな電柱や垂れ下がった電線に注意する。
- 繁華街などでは落下物に注意する。
- 頭をカバンなどで保護して、空き地や近くの公園などに避難する。



電車などの車内

- 将棋倒しや網棚からの落下物に注意し、つり革や手すりにつかりつかまる。
- 座っているときは、足をふんばって上体を前かがみに。雑誌やカバンなどで頭を保護する。
- 勝手に降車せず、乗務員の指示に従って落ち着いた行動を。



車を運転中

- 徐々にスピードを落とし、道路の左側に停車する。
- 揺れがおさまるまで車外には出ず、カーラジオなどで情報を収集する。
- 避難が必要なときは、キーはつけたまま、ドアロックもしない。車検証などの貴重品を忘れずに持ち出し、徒歩で避難を。



海岸付近

- 高台へ避難し津波情報をよく聞く。注意報・警報が解除されるまでは海岸に近づかない。(8～10ページ参照)



学校・勤務先では

学校にいるとき

- 先生や校内放送の指示に従う。
- 教室にいるときは、すぐ机の下にもぐり、机の脚をしっかりと持つ。
- 本棚や窓から離れ、安全な場所に移動する。



職場にいるとき

- 窓際やロッカー、資料棚などから離れて、机の下などに入り身を守る。
- 揺れがおさまったらガス湯沸かし器などのスイッチを切るなど、火元を確認する。



家の内外の危険箇所をチェックしましょう

屋内

家の中に、家具のない安全なスペースを確保する

部屋が複数ある場合は、人の出入りが少ない部屋に家具をまとめて置く。無理な場合は、少しでも安全なスペースができるよう配置換えをしましょう。



寝室や子ども、高齢者、病人のいる部屋には倒れそうな家具を置かない

就寝中に地震が発生した場合、子ども、高齢者、病人などは倒れた家具がさまたげとなって逃げ遅れる可能性があるため、十分に注意をしましょう。



出入り口や通路には物を置かない

安全に避難できるように、玄関など出入り口までの通路に、家具や倒れやすい物を置かない。また、いろいろな物を置くと、いざというときに出入り口をふさいでしまうこともあります。



スッキリ

家具の転倒・落下を防止しましょう

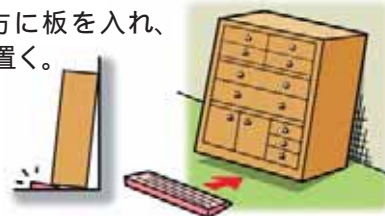
● 収納に工夫を

- 重いものは下に、軽いものは上に収納する。
- 本棚などは、隙間をブックエンドで固定するなど、なるべく空間をつくらない。



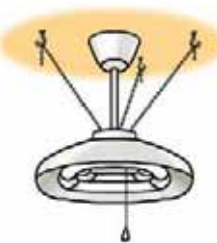
● 置き方に工夫を

- 家具の下部の前方に板を入れ、壁にもたれ気味に置く。
- 就寝場所に家具が倒れてこないように配置する。



● 照明器具の補強を

- 天井に直接取り付けるタイプの照明が安全。
- つり下げ式の場合は、鎖と金具を使って数か所留めて補強する。
- 蛍光灯は蛍光管の落下を防止するため、両端を耐熱テープで止めておくなどすると安全です。



● 耐震金具を利用しましょう

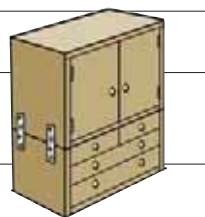
● 転倒防止金具・ポール

壁・柱・鴨居と家具を固定するタイプと、床などに固定するタイプとがある。家具や室内の状況によって選ぶ。



● 重ね留め用金具

重ねた上下の家具を固定し、上の家具の落下を防ぐ。



● 扉・引き出し開放防止金具

扉・引き出しが開かないようにする。さらに、収納物の落下を防止するために、棚板に滑り止めにふきんなどを敷いたり、木やアルミの棒による飛び出し防止棒を付けると安心です。



冷蔵庫などの家電製品には専用の転倒防止金具が用意されている場合もあります。取扱説明書を読んで活用を。

内外の危険箇所をチェックしましょう

ガラス

- 飛散防止フィルムをはる。
- 食器棚や額縁などに使われているガラスにも飛散防止フィルムをはっておくと安全です。

屋根

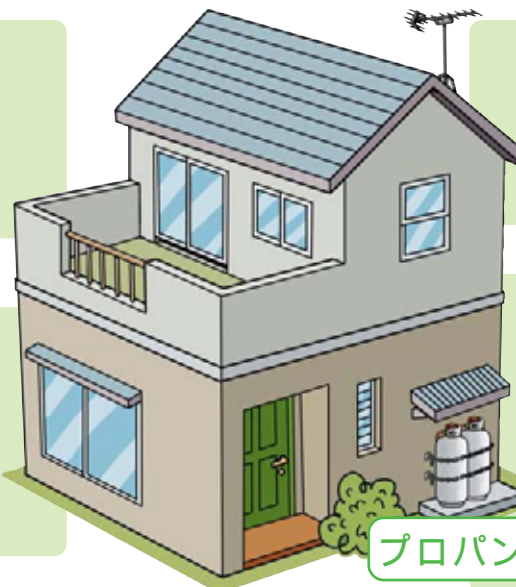
- アンテナはしっかりと固定する。
- 屋根がわらのチェックを。ひび割れ、ずれ、はがれがある場合は補強をしましょう。

ベランダ

- 植木鉢や物干しざおなど、落下の危険性があるものは防止策を。
- ベランダから避難できるように常に整理整頓をしましょう。

プロパンガス

- ボンベを鎖でしっかり固定しておきましょう。



家族で防災について話し合いましょう

実際に地震が発生したときのことを想定して、各自ですべきことや避難方法、連絡方法などを家族で話し合っておきましょう。

1 役割分担を決める

- 日常の予防対策上の役割と地震発生時の役割を決めておく。
- 高齢者や乳幼児などがある場合は、保護担当者を決める。



2 危険箇所をチェック

- 家の内外をチェックして、危険箇所をさがす。
- 危ない箇所は、修理や補強方法について話し合う。



3 安全な空間を確保

- 家具の配置換えをして、家の中に安全なスペースを確保する。
- 家具の転倒・落下を防ぐ方法を決める。



4 非常持出品のチェック

- 必要な非常持出品がそろっているか確認する。
- 定期的に保存状態や使用期限を点検・交換する。



5 防災用具などの確認

- 消火器や救急箱、非常用品の置き場所を確認。
- 消火器の使い方を覚えておく。
- 応急手当の方法を覚えておく。



6 連絡方法や避難場所の確認

- 家族が離ればなれになったときの連絡方法や避難場所を確認する。
- できれば休日などを利用し、みんなで避難経路などの下見をしておく。
- 防災連絡カードをつくり、携帯しておく。

check ノート

家族で決めた役割分担を書いておきましょう。

地震の正しい知識を身につけましょう

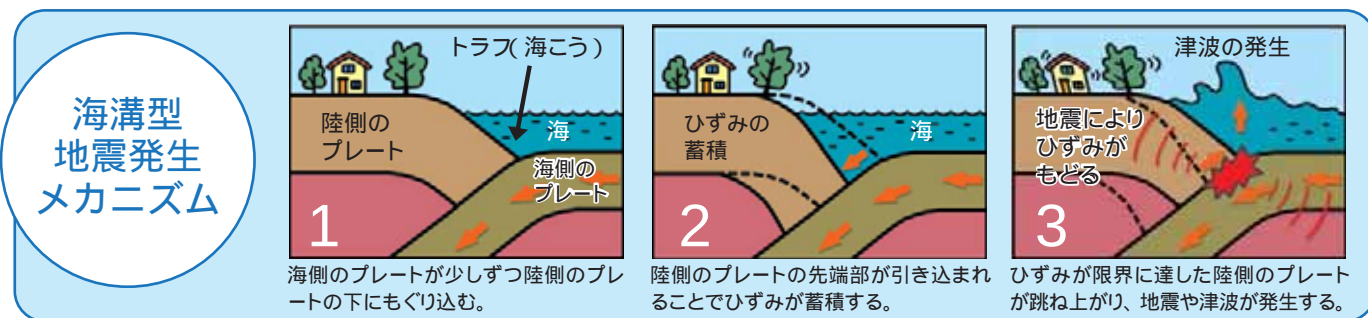
地震発生のしくみ

●海溝型の地震

日本列島が乗っている大陸側のプレートに、海洋側のプレートが毎年数cmもぐり込んでいます。そのときに大陸側のプレートが引きずり込まれ、プレート同士の境目にひずみが蓄積されます。それが限界に達したときに、もとに戻ろうと急激に動き地震が発生します。平成23年3月11日の東日本大震災は、プレートの境界域における海溝型地震でした。

●活断層による地震

プレートに蓄積されたひずみのエネルギーが、プレートの内部で破壊を引き起こし、断層が動き地震が発生します。平成7年の阪神・淡路大震災(兵庫県南部地震)は、プレートの内部における内陸型地震でした。



地震の揺れと被害想定 (気象庁震度階級表より作成)

震度0 ● 人は揺れを感じない。		震度5弱 ● 大半の人が恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。	
震度1 ● 屋内で静かにしている人の中には、揺れをわずかに感じる人がいる。		震度5強 ● 物につかまらなると歩くことが難しい。	
震度2 ● 屋内で静かにしている人の多くが、揺れを感じる。		震度6弱 ● 壁のタイルや窓ガラスが壊れ、ドアが開かなくなることがある。	
震度3 ● 屋内にいる人のほとんどが揺れを感じる。		震度6強 ● 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える。	
震度4 ● 電灯などのつり下げものは大きく揺れる。		震度7 ● 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものがさらに増える。	

マグニチュードと震度の違い

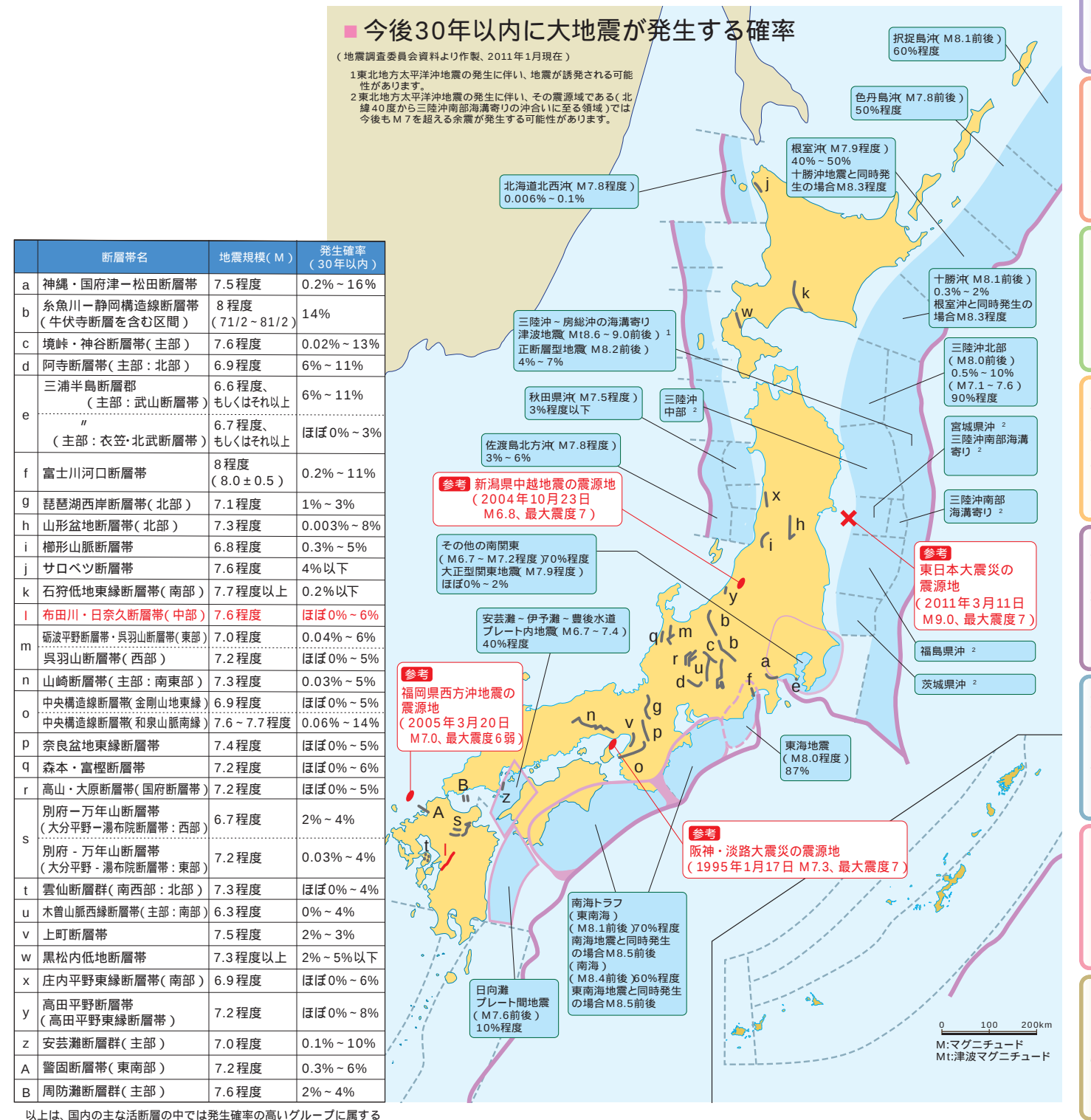
地震のエネルギーの大きさをマグニチュード、各地域での地震の揺れの大きさを震度といいます。東日本大震災では地震の規模を示すマグニチュードは9.0を記録しました。この地震により、宮城県栗原市で震度7を観測。宮城、福島、茨城、岩手の4県を中心に、東北から関東にかけての広範囲で震度6弱以上の揺れに見舞われました。



全国で想定されている大地震

国は、今後30年間に国内で発生すると思われる地震の発生確率を公表しています。海側プレート周辺で起きる東海、東南海、南海地震などの「プレート境界型地震」に加え、陸側プレート内部の活断層を震源とする「内陸直下型地震」も数多く予想されています。図に示す通り、県内に存在する「布田川・日奈久断層帯」は発生確率の高いグループに属しています。

ただし、新潟県中越地震のように国の発表に含まれない断層が大地震を起こす可能性があることも十分認識する必要があるでしょう。どこに住んでいても地震への備えを欠かすことはできないのです。



以上は、国内の主な活断層の中では発生確率の高いグループに属する

津波の危険から身を守りましょう

私たちは海岸沿いに住んでいなくても、沿岸で仕事をしたり、遊んだり、通過したりします。沿岸沿いに住んでいる場合だけでなく、誰でも津波から身を守るためのポイントをしっかり確かめておきましょう。

熊本市でも過去に津波災害がありました！

1792年(寛政4年)雲仙岳・眉山の巨大崩壊による3億 m^3 の土砂が海に突入し、最大23mの津波を有明海沿岸に引き起こしました。対岸の肥後と天草における津波による死者は約5,000人でした。島原領における死者は崩壊によるものを含め約1万人でした。

2011年(平成23年)3月11日に起きた東日本大震災では、国内観測史上最大のマグニチュード9.0の大地震が発生しました。この地震のあと、直ちに大津波が発生。東北・関東地方に至る太平洋沿岸を襲い、特に岩手、宮城、福島沿岸地域において甚大な被害をもたらし、多くの尊い命が犠牲になりました。その一方で、地震の発生直後に山や高台などへ逃げた人は助かっています。

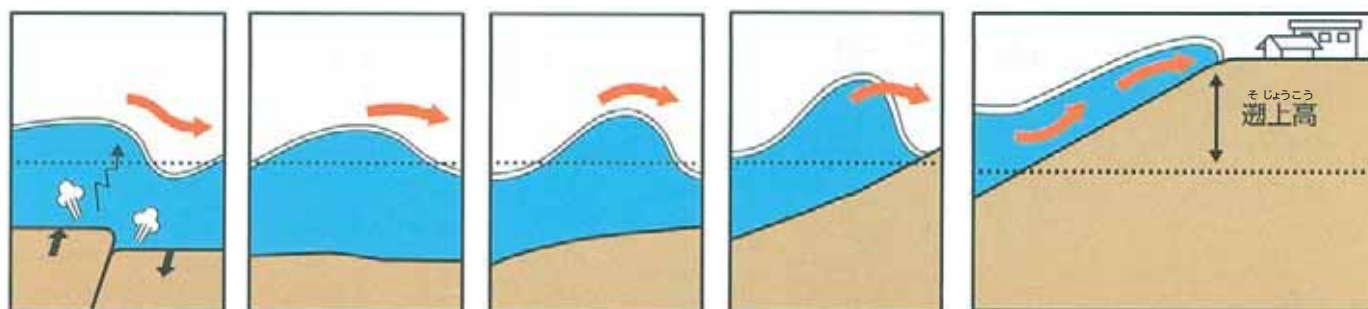
津波被害が予測される地域では、地震発生と同時にまず海岸から少しでも遠い高台へ避難することが原則です。



堤防を越えて市街地に流れ込む黒い波(岩手県宮古市)
写真提供:毎日新聞社

津波はどのように襲ってくるのか

海底で起きた地震が原因で、海水が陸地に押し寄せる現象を津波といいます。



地震による海底面の隆起沈降が、海水の上下変動を起こす。
波となって四方に伝わる。
水深が浅くなるに従って波が高くなる。
さらに海底の地形の影響で波が高くなる。
陸上へ打ち上げる。

- 気象庁が発表する「津波の高さ」とは、海岸付近の海面がどのくらい高くなるかをいいます。
- 津波の高さは、海岸や湾の地形によって予想された数倍に達することがあります。
- 津波が、海岸を駆け登ることを遡上^{そじょうこう}といい、ときには数十メートルに及ぶことがあります。この高さを遡上高^{そじょうこう}といいます。

check ノート

自宅や日中よくいる場所から高台までの避難経路と何分かかかるか書いておきましょう。

津波はこんなところに注意！

深海ではジェット機並みの速さ！

津波の速さは海が深いほど早く、津波が太平洋を伝わる速さは、ジェット機並みにもなります。海岸近くでも秒速10m程度の速さなので、津波が見えてからではとても逃げきれません。

引き潮がなくても津波は襲ってくる

津波の前に、引き潮が必ずあるとは限りません。地震の起こり方や、震源付近の地形によっては、引き潮が起こらないことも。

津波の高さは想像を超える！

津波の高さは海岸の地形などに大きく左右されます。東日本大震災では、岩手県宮古市重茂姉吉地区で40.5mの津波の跡が確認されています。

津波は繰り返し襲ってくる

津波は2回、3回と繰り返し襲ってきます。1回目で安心しないこと。波が落ち着くまで注意し、警報、注意報が解除されるまで海岸に近づかないようにしましょう。

津波から命を守る対応チャート

！こんなときには

強い地震や長時間の揺れを感じた

避難する

大津波・津波警報が発表された
(揺れを感じなくても)

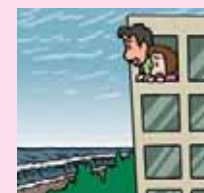
避難する

津波注意報が発表された
(揺れを感じなくても)

避難に備える

！まずこのような行動を

- 海岸にいる人は、直ちに海岸から離れ、すばやく高台や高いビルなどの安全な場所へ避難
- 沿岸部にいる方々は直ちに避難



- 海水浴や磯釣りはすぐに中止し、すばやく陸上の安全な場所へ避難
- 沿岸部にいる方々はいつでも避難できるように準備



！その後は...

- 正しい情報をラジオ・テレビ、同報無線などで入手する
- 津波は繰り返し来襲するので、警報・注意報が解除されるまでは絶対に海岸に近づかない



日ごろから避難場所や避難経路を確認しておきましょう。

● 津波から避難する3つのポイント

POINT 1 地震の揺れの程度で自ら判断しない

津波の危険地域では、小さい揺れでも、揺れを感じなくても、まずは避難を最優先にしましょう。



POINT 2 避難には車を使わない

原則として、車で避難するのはやめましょう。東日本大震災の地震直後、沿岸部各地では避難しようとする車で渋滞が発生。被害を大きくしました。



POINT 3 “遠く”よりも“高く”に

すでに浸水が始まってしまった場合などは、思うように避難できないことが予想されます。そんな場合は、遠くよりも高い場所などに逃げ込みましょう。



津波予報の種類

津波予報には、大津波警報、津波警報、津波注意報の3種類があります。それぞれ予想される津波の高さをメートル単位で発表するほか、海岸に津波が到達する予想時刻もあわせて発表されます。熊本市の予報区は「有明・八代海」です。

予報の種類		解説	発表される津波の高さ
津波警報	大津波	高いところで3m程度以上の津波が予想されますので、厳重に警戒してください。	3m、4m、6m、8m、10m以上
	津波	高いところで2m程度の津波が予想されますので、警戒してください。	1m、2m
津波注意報	津波注意報	高いところで0.5m程度の津波が予想されますので、注意してください。	0.5m

注：「津波の高さ」とは、平常の海面から、津波によって高くなった高さのこと。

津波災害における熊本市避難判断基準（平成23年5月時点）

津波災害	
避難準備情報	● 津波予報区の「有明・八代海」に津波警報が発表され、人的被害の発生するおそれがあり、要援護者等の避難が必要と認めるとき
避難勧告	● 津波予報区の「有明・八代海」に津波警報が発表され、人的被害の発生する可能性が明らかに高まったとき
避難指示	● 津波予報区の「有明・八代海」に津波警報が発表され、人的被害の発生する危険性が非常に高いと判断されるとき ● 津波予報区の「有明・八代海」に大津波警報が発表されたとき

風水害に備えましょう

台風や豪雨の到来は予測できるからと安易に考えてはいけません。大雨や強風は私たちに何度も大きな災害をもたらしています。油断せず日ごろから十分な対策を立てておきましょう。



豪雨・台風が引き起こす災害

熊本市に被害を及ぼした主な風水害

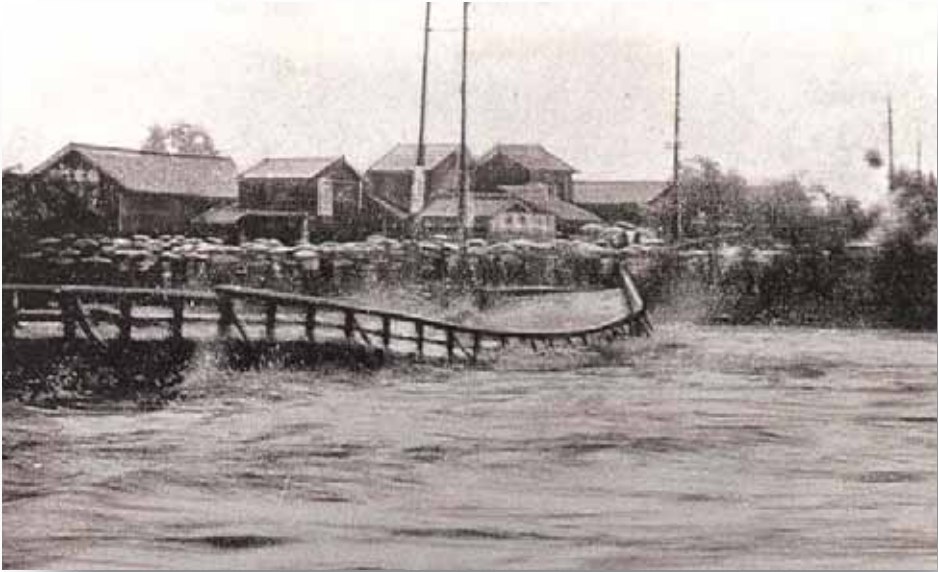
暴風雨の吹き荒れる台風、梅雨時期の大雨、突然の集中豪雨…。私たちの日常生活にこうした悪天候が襲いかかると、人命を含めて、深刻な被害を引き起こします。

熊本市では、1953年（昭和28年）6月26日、集中豪雨によって市内を流れる白川が氾濫。全市の70%が浸水し、白川に架けられた橋梁が長六橋・大甲橋を除き全て流失するなど、壊滅的な損害と死者・行方不明者をもたらしました。

私たちは、常に風水害・土砂災害の危険にさらされています。家族の安全と財産を守るためには、日ごろからの備えが大切です。

西暦（和暦）	災害要因	名称	熊本市域における被害
1927. 9.13（昭和2年）	高潮災害	昭和2年高潮災害	死者・行方不明者423人、重傷者23人、有明海沿岸の各所で堤防決壊
1935.6.28～30（昭和10年）	豪雨洪水	—	死傷者4人、床上浸水520戸、床下浸水3,077戸、堤防決壊50箇所、橋梁流失20脚
1953.6.25～28（昭和28年）	大雨洪水	6.26大水害	死者206人、不明125人、負傷者237人、被害戸数55,664戸、堤防決壊・がけ崩れ135箇所
1957.7.25～26（昭和32年）	大雨洪水	7.26水害	死者83人、不明29人、負傷者140人、被害戸数16,190戸、堤防決壊・がけ崩れ30箇所
1975.6.25（昭和50年）	大雨	6.25水害	住家全半壊12戸、床上床下浸水3,441戸
1980.8.30（昭和55年）	集中豪雨	8.30水害	住家半壊2戸、床上床下浸水5,398戸、堤防決壊・がけ崩れ10箇所
1982.7.23～25（昭和57年）	梅雨前線	長崎豪雨（7.24水害）	死者4人、住家全半壊12戸、床上床下浸水4,506戸
1988.5.3～4（昭和63年）	大雨	5.3水害	床上床下浸水5,214戸、がけ崩れ78箇所
1990.6.28～7.3（平成2年）	集中豪雨	7.2水害	死者2人、床上床下浸水1,474戸、がけ崩れ29箇所、道路決壊2箇所、堤防決壊4箇所
1991.9.27（平成3年）	台風	台風19号	死者1人、負傷者16人、家屋全壊79戸、家屋半壊678戸、一部損壊63,752戸、瞬間最大風速53.6m/s.
1999.9.24（平成11年）	台風	台風18号	死者1人、負傷者51人、家屋全壊19戸、家屋半壊238戸、一部損壊10,170戸、瞬間最大風速49.0m/s.

出典：熊本市地域防災計画（平成23年度改訂版）風水害編より



6.26白川大水害。激流に洗われ流失寸前の明午橋。

『国土交通省 熊本河川国道事務所』提供

集中豪雨から身を守りましょう

集中豪雨は、短時間のうちに狭い地域に集中して降る豪雨のことで、梅雨の終わりごろによく起こります。狭い地域に限られ突発的に降るため、その予測は現状困難です。そのため、気象情報や起きている現象から危険レベルを判断し、行動することが重要になってきます。

集中豪雨の危険を知っておきましょう

● 短時間で危険な水位

河川、溪流、下水管、用水路などは、激しい雨が降ることやまわりから雨が流れ込むことで、数分から数十分で危険な状態となります。



● 注意報や警報が出ない雨でも災害が発生する

大雨や洪水の警報・注意報の発表基準に達しないわずかな雨でも災害が発生するおそれがあります。



● 下水の排水能力を超える大雨

下水道の雨水排水能力(1時間当たり50mm)を大きく超える時間雨量100mm以上の豪雨が頻発しています。



● 離れた場所の雨でも影響する

自分の居る場所で強い雨が降っていないくても、上流で降った雨が流れてきて、危険な状態になる場合があります。



このような前兆を確認したら避難

- 空が真っ黒になったり、雷鳴や稲妻を確認したら建物内へ避難
- 冷たい風が吹き出したら注意
- 大粒の雨やひょうが降り出したら建物内へ避難

- 川の水かさが増したり、濁ってきたら即避難
- 雨の日に周囲より低い位置にいる場合は、高い場所へ移動

● 雨の強さと降り方

1時間の雨量	予報用語	人の受けるイメージ	災害発生状況
10～20ミリ	やや強い雨	ザーザーと降る。	長く続く時は注意が必要。
20～30ミリ	強い雨	どしゃ降り。	側溝や下水、小さな川があふれ、小規模のがけ崩れが始まる。
30～50ミリ	激しい雨	バケツをひっくり返したように降る。	山崩れ・がけ崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要。
50～80ミリ	非常に激しい雨	滝のように降る(ゴーゴーと降り続く)。	都市部では地下室に雨水が流れ込む場合がある。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生。
80ミリ以上	猛烈な雨	息苦しくなるような、圧迫感がある。恐怖を感じる。	雨による大規模な災害の発生するおそれが強くなり、厳重な警戒が必要。

気象庁資料より抜粋

土砂災害から身を守りましょう

土砂災害に注意しましょう

市内には急傾斜地崩壊危険箇所、土石流危険渓流、地すべり危険箇所などがあります。これらの地域は台風や集中豪雨・地震によって大きな被害を受けることが考えられますので、地域ぐるみで十分な注意をしましょう。

土砂災害は、雨がやんでからも発生することがあります。

土砂災害の種類と前兆現象

がけ崩れ



地面にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、弱くなった斜面が突然崩れ落ちるのががけ崩れです。突発的に起こり、瞬時にして崩れ落ちるので、逃げ遅れる人も多く、被害が大きくなります。

！ こんな前兆現象に注意！

- がけからの水がにごる。
- 地下水やわき水が止まる。
- 斜面のひび割れ、変形がある。
- 小石が落ちてくる。
- がけから音がする。
- 異様なにおいがする。

地すべり



比較的ゆるやかな斜面において、地中の粘土層などの滑りやすい面が地下水などの影響で、ゆっくりと動きだす現象です。一度に広範囲で発生するために、住宅や道路、鉄道などに大きな被害をおよぼします。

！ こんな前兆現象に注意！

- 地面にひび割れができる。
- 井戸や沢の水がにごる。
- がけや斜面から水がふき出す。
- 家やよう壁に亀裂が入る。
- 家やよう壁、樹木、電柱が傾く。

土石流



谷や斜面にたまった土や石、砂などが、大雨による水と一緒に一気に流れだして起こります。破壊力が大きく、また流れる速度も速いため、大きな被害をもたらします。

！ こんな前兆現象に注意！

- 山鳴りがする。
- 雨が降り続けているのに、川の水位が下がる。
- 川の水がにごったり、流木がまざる。
- 腐った土のにおいがする。

check ノート

自宅の近くやよく通る場所に土砂災害などの危険箇所がないか確認し、書いておきましょう。

「土砂災害警戒情報」をご存知ですか？

「土砂災害警戒情報」をご存知ですか？
これは、大雨による土砂災害発生の危険度が高まったとき、市長が避難勧告などを発令する際の判断や、住民の皆様の自主避難の参考となるよう、県と気象庁が共同で発表する防災情報です。ただし、土砂災害は地質や地下水の状況などに大きく影響を受

けるため、発生の詳細な情報を特定することはできません。**土砂災害警戒情報が発表された場合はもちろん、発表されていなくても、斜面の状況などに注意を払い、前兆現象に気がいたら、直ちに安全な場所に避難し、市役所などに連絡しましょう。**

土砂災害における 熊本市の避難情報について

本市では、県の土砂災害危険度情報・降雨量・前兆現象などを元に、次の3段階に分けて避難情報を発令、お知らせします。

種 別	危険度	内 容
避難準備情報	低	災害発生のおそれがある場合に発令し、避難または避難の準備を呼びかけるものです。特に避難に時間を要する方や支援する方に早めに避難をお願いするものです。
避難勧告		災害発生のおそれまたは被害が発生する場合に発令し、居住者へ避難を勧め促すものです。
避難指示	高	被害の危険が切迫したときに発令し、「勧告」より拘束力が強くなります。

避難情報は、「○○校区の一部」という表現で発令、伝達されます。

避難情報が出された小学校区にお住まいの方で、がけ地に近接している(またはがけ地の上下に住んでいる)など土砂災害の危険性が高い地区にお住まいの皆様は、自ら判断して早めの避難を心がけてください。

土砂災害の危険性がある地域は、「熊本県土砂災害情報マップ」(<http://sabo.kiken.pref.kumamoto.jp/website/indexnew.html>)で調べることができます。

平成15年7月 水俣市



平成23年6月 熊本市



避難の

ポイント

長雨や豪雨に注意

1時間に20ミリ以上、または降り始めからの降雨量が100ミリ以上になったときには、土砂災害が発生するおそれがあるので警戒しましょう。

前兆現象を知り 早めに避難

土砂災害の発生前には、前兆現象がみられることがあります。前兆現象が起こったときは、速やかに避難しましょう。

土石流に直面した時の 逃げ方

土石流のスピードは、時速20～40キロメートルととても速く、流れに背を向けて逃げても、すぐに追いつかれてしまいます。土砂の流れる方向に対して直角に逃げましょう。

台風から身を守りましょう

台風が接近して災害発生のおそれが高まった場合には、台風情報とあわせて大雨、洪水、暴風、高波、高潮などの防災気象情報が発表されます。情報に注意し、早めに避難しましょう。



● 台風の状況と気象情報

台風の状況	気象庁の気象情報	地元気象台の気象情報
台風発生	熱帯低気圧に関する情報 台風情報 現在の状況(3時間ごと) 最大72時間先までの予報(6時間ごと)	台風に関する気象情報 (以後、暴風などの状況を適宜発表)
台風接近	暴風域に入る確率の発表 72時間以内に暴風域に入る確率が0.5%以上の地域に対して6時間ごとに発表 台風情報(1時間ごと) 台風が中心が日本の海岸線から300km以内に入った場合 「台風○号は、○日○時ごろ、 ○○市付近に上陸しました」	強風、大雨、高潮注意報など 暴風、大雨、高潮警報など
台風上陸		土砂災害警戒情報 (重大な土砂災害のおそれがある場合)

● 台風の強さの階級分け

階級	最大風速
強い	33m/秒以上～44m/秒未満
非常に強い	44m/秒以上～54m/秒未満
猛烈な	54m/秒以上

気象庁による

● 台風の大きさの階級分け

階級	風速15m/秒以上の半径
大型 (大きい)	500km以上～800km未満
超大型 (非常に大きい)	800km以上

気象庁による

● 風と被害

平均風速(m/秒)	10以上～15未満	15以上～20未満	20以上～25未満	25以上～30未満	30以上
予報用語	やや強い風	強い風	非常に強い風	猛烈な風	
人への影響	風に向かって歩けにくくなる。傘がさせない	風に向かって歩けない。転倒する人も出る	しっかりと身体を確保しないと転倒する	立ってられない。屋外での行動は危険	
屋外・樹木の様子	樹木全体が揺れる。電線が鳴る	小枝が折れる	樹木が根こそぎ倒れはじめる		
車に乗っていて	道路の吹き流しの角度が、水平(10m/秒)。高速道路で乗用車が横風に流される感覚を受ける	高速道路では、横風に流される感覚が大きくなり、通常の速度で運転するのが困難となる	車の運転を続けるのは危険な状態となる		

雨風が強まってきたときは

大雨や台風などが接近してきた場合、おおまかに以下のような流れの対応を考えましょう。
無理をせず、とにかく早めの避難が重要であることをくれぐれも肝に銘じてください。

●最新の気象情報を確認する



●避難に関する情報を確認する



●浸水などが予想されたら早めに避難する

隣近所に声を掛け合って、できるだけ集団で避難する



●風雨が強まってきたときの対応

！ 地下室にいる場合は、早く地上へ移動

！ 家庭内からの排水を控える（風呂水の排水、洗濯など）

！ 家の外の確認
飛ばされそうなもの、流されそうなものをしまう など

！ 家の中の確認
窓ガラスの破損の備え、内側からテープをはる。カーテンをおろす など

！ 大事な家財などを高い場所（2階など）に移動させる

！ 簡単な浸水対策
水のうや土のうで入り口を囲む。タオルで窓のすき間をふさぐ など

！ 家族の居場所を確認する
離れていたら安否を確認。避難を事前に連絡

！ 避難の準備をする
持出品の用意。避難先、避難路の確認



check ノート

避難所までの地図を書いてみましょう。

高潮から身を守りましょう

1927年(昭和2年)9月13日、熊本県を襲った台風により旧飽託郡、玉名郡、宇土郡の海岸で高潮が発生し、死者・行方不明者423人、重傷者23人に上りました。

有明海沿岸の各所が決壊し、海水は場所によっては堤防から4500mの内陸(現在熊本市内田町)までに及びました。また、潮位は高いところで20尺(6m)以上となりました。

高潮発生のおくみと危険な場所

●高潮発生には、主に3つの要因が挙げられます

① 気圧低下による海面の吸い上げ

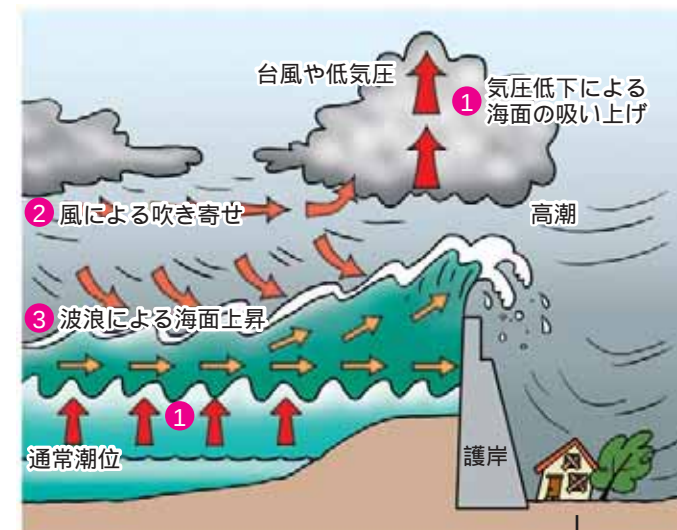
台風や低気圧の中心気圧は周辺より低いため、中心付近の空気が海面を吸い上げる結果、海面が上昇します。

② 風による岸への吹き寄せ

台風による強い風が海岸に向かって吹くと、海水は海岸に吹き寄せられて、海岸付近の海面が異常に上昇します。

③ 波浪による海面上昇

大きな波が海岸に向かって絶え間なく押し寄せると、沖に急速に戻ることができず、岸に近い場所に多量の海水がたまるようになり、海面が上昇します。波が大きいほど、海面の上昇も大きくなります。



ゼロメートル地帯
海岸近くのゼロメートル地帯は高潮による浸水の被害に要注意です。

●高波が発生しやすいところ

① 南向きの湾

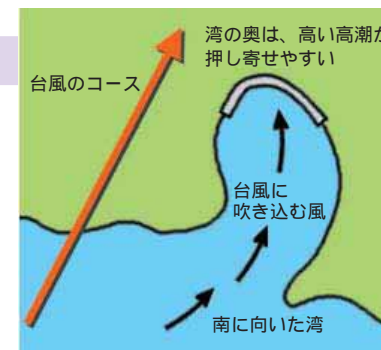
台風が南側に開いた湾の西側を通過するときは、台風中心の低気圧で海面が待ち上げられた状態になります。

② 湾の奥まったところ

海岸線が、V字型に奥に行くほど狭くなっているところは、持ち上がった海面の逃げ場がなくなり一層持ち上がります。

③ 台風の東側

台風が通過するとき、その東側には南風の暴風により海水が吹き寄せられます。



高潮災害における熊本市避難判断基準

災害が発生し、または発生するおそれがある場合は、市民の皆さまに対して避難の準備・勧告・指示を発令します。各避難情報に応じた避難行動については、26ページを参照してください。

① 避難準備情報

高潮警報が発令されたとき。

② 避難勧告

高潮警報が発令され、海岸部等への浸水が発生するおそれがあるとき。

③ 避難指示

●高潮警報が発令され、海岸部等への浸水が発生し、被害の危険が目前に切迫しているとき。
●海岸において、堤防の倒壊や決壊が発生したとき。または波が堤防を越えたとき。

火事だ！そのときどうする

出火の現場に居合わせたら、まず「通報」「初期消火」「避難」が大切です。優先順位は状況により異なります。出火直後なら「通報」と「初期消火」の優先順位が高くなりますが、そのために逃げ遅れては大変です。あわてず冷静な判断を心掛けましょう。



行動1 通報

大声で「火事だ！」と叫ぼう

- 大きな声で叫び、隣近所に知らせる。声が出ない場合は、非常ベルや音の出るものをたたく。
- どんなに小さな火事でも119番通報を。

行動2 初期消火

出火直後が勝負

- 火がまだ横に広がっているうちなら消火は可能。
- コップに入った水や座ぶとんなど、身近なものを最大限に活用しましょう。

行動3 避難

危険を感じたらすぐ避難

- 避難するときは燃えている部屋の窓やドアを閉めて空気を遮断。すみやかに行動を。

火元別の消火方法を覚えておきましょう

消火器については19ページ参照

ストーブ

- 消火器は直接火元に向けて噴射する。石油ストーブの場合は粉末消火器で。
- 消火器がない場合は、水にぬらした毛布などを手前からすべらせるようにかぶせ、空気を遮断する。



電気機器

- コンセントかブレーカーを切り、粉末消火器で消火する。泡消火器などは感電のおそれがあるので使用しないようにしましょう。



カーテン・ふすま・障子

- カーテンなどは上に燃え広がる前の対処が重要。火がついたら、引きちぎってから消火する。
- ふすまや障子などはけり倒し、足で踏んで消す。その後、水をしっかりかけて消火しましょう。



コンロ（天ぷら油）

- まずコンロの火を消す。水をかけるのは厳禁。
- 粉末消火器はなべの全面を覆うように、強化液消火器はなべのふちに向け噴射する。
- 消火器がない場合は、ぬらしたシーツやバスタオルを手前からかぶせ、空気を遮断する。



たき火

- 消火器を使う。消火器がない場合は水をかける。水の準備ができないときは、近くのほうきや木でたたいて消し、その後、水をしっかりかけて消火しましょう。



逃げるタイミングは天井への延焼！

避難する目安は、天井まで火が燃え移ったとき。火が天井に燃え移るまでの間は初期消火に努めますが、もし炎が天井に燃え移ったら、けっして自分で消火をしようとせず、迷わずすぐに避難をしてください。

消火器の使い方を覚えておきましょう

● 消火器の種類

消火器には、どんな種類の火事に適しているかを示すラベルが表示されています。火災種別に合った消火器を選びましょう。一般の家庭の場合は、万能タイプの粉末消火器が強化液消火器が便利です。

火災の種類・ラベルの色	普通火災	油火災	電気火災
	木材・紙など一般可燃物による火災 	灯油・ガソリンなどが燃える火災 	電気設備など感電の恐れがある火災
消火器の種類	白 ○	黄色 ●	青 ●
粉末消火器	○	○	○
強化液消火器	○	○	○
泡消火器	○	○	×

● 消火器の使い方

1 安全ピンに指をかけ、上に引き抜く



2 ホースをはずして火元に向ける



3 レバーを強くにぎって噴射する



● 構え方

火の風上に回り、風上から構える。やや腰をおとして低く構える。熱や煙を避け、炎には真正面から向き合わない。炎を狙うのではなく、火の根元を掃くように左右にふる。



点検のポイント

安全ピン

- 変形、損傷はないか
- 封印は切れていないか

ホース

- ひび割れ、劣化、ゆるみはないか

本体・底部

- サビや変形はないか

レバー

- 変形、損傷はないか

キャップ

- 変形やゆるみはないか

ゲージがある場合

- 圧力を示す針が規定値内にあるか



住宅用防災機器を活用しましょう

■ 火災の発生を早く知る

- 住宅用火災警報器
煙や熱を感知すると、警報音で知らせてくれます。平成16年の消防法改正により、設置が義務づけられました。



■ 火災防止に

- 安全装置付調理器具
異常な過熱や火が消えた際に、自動的にガスの供給を止めます。



■ 火災の被害を最小限に

- 防災品
火がついても燃え広がりにくい防災品。カーテンやカーペット、寝具、エプロンなど。
- 住宅用消火器
小型で軽量タイプの消火器です。
- 簡易自動消火装置
火災の熱を感知すると、自動的に薬剤を放出します。
- 住宅用スプリンクラー設備
火災の熱を感知すると、部屋全体に放水します。



地域ぐるみで支え合いましょう

大地震のような規模の大きな災害で、すぐには消防や警察などの救援が得られないとき頼りになるのは、住民自身が自発的につくる防災のための組織(自主防災クラブ)です。自分の大切な家族が、タンスや瓦礫の下敷きになり、一刻を争う事態となればもはや残された家族だけではどうすることもできません。さらに、高齢者や病人などの災害時要援護者といわれる方々の、安全を確保することは極めて困難な状態になることが予想されます。「自分たちのまちは自分たちで守る」という心構えで、地域の自主防災クラブ等の活動に積極的に参加し、地域ぐるみで支え合いましょう。

自主防災クラブに参加しましょう

平常時の活動

自主防災クラブの活動でまず重要なのは、防災上の知識、活動の必要性や重要性を一人ひとりに理解してもらうことです。



防災知識の普及

防災講習会の開催など。住民一人ひとりが防災に関心を持つような取り組みをしましょう。

防災巡視・点検

地域内の危険箇所や防災上の問題点を洗い出し、改善すべき点是对策を立てて解決しましょう。また、防災マップの作製をしましょう。

防災資機材の整備・点検

地域の実情に応じて、消火用具や避難・救出のための防災資機材を整備・点検しておきましょう。

防災訓練

初期消火訓練や避難誘導訓練、救出・救護訓練、給食・給水訓練など、いざというときに的確な対応ができるよう、地域の人たちに参加を呼びかけ、防災訓練を実施しましょう。

災害時の活動

自主防災クラブでは、非常時の応急活動の目標として、主に以下のような活動を想定しているケースが多く見られます。



情報の収集・伝達

公的防災機関と連携し、災害に関する正しい情報を住民に伝えましょう。また、地域の被災状況や火災の発生状況を公的機関に伝達しましょう。

救出活動

負傷者や倒壊した家屋などの下敷きになった人たちの救出・救助活動を行います。救出作業は危険が伴いますので、二次災害に注意しましょう。

初期消火活動

消防隊や消防団が到着するまでの間、火災の拡大延焼を防ぐのが基本です。決して無理はしないようにしましょう。

医療救護活動

大災害時には、多数の負傷者が出るため、すぐに医師による治療が受けられるとは限りません。負傷者の応急手当を行い、救護所へ移送しましょう。

避難誘導

住民を避難所などの安全な場所に誘導しましょう。避難経路は災害により変化しますので、複数のルートの中から、より最適な経路で誘導しましょう。

給食・給水活動

食料や飲料水、応急物資などを配分。必要に応じて炊き出しなども行います。

災害時要援護者にやさしいまちづくりを

突然の災害に見舞われたとき、大きな被害を受けやすいのは、高齢者や子ども、障がい者、傷病者、外国人などのなんらかの手助けが必要な人(災害時要援護者)です。熊本市では、これらの方を、地域と連携して支援する共助の仕組みづくりを進めています。こうした災害時要援護者を地震や火災から守るために、地域で協力し合いながら支援していきましょう。

災害時要援護者の身になって防災環境の点検を

放置自転車などの障害物はないか、耳や目の不自由な人や外国人向けの警報や避難の伝達方法はあるかなど、災害時要援護者に対応した環境づくりをしましょう。



避難するときはしっかり誘導する

ひとりの災害時要援護者に対して複数の住民で支援するなど、地域で具体的な救援体制を決めておきましょう。隣近所で助け合いながら避難するようにしてください。



困ったときこそ温かい気持ちで

非常時にこそ、不安な状況に置かれている人の立場に立ち、支援する心構えを。困っている人や災害時要援護者に対し、温かいおもいやりの心で接しましょう。



日ごろから積極的なコミュニケーションを

災害時の支援活動をスムーズにするためには、災害時要援護者とのコミュニケーションを日ごろからはかっておくことが大切です。



・高齢者や傷病者

- 複数の人で対応します。
- 緊急のときはおぶって避難します。



・耳が不自由な人

- 口を大きく動かし、はっきりと話しましょう。
- 身ぶりや筆談などで正確な情報を伝えましょう。



誘導する際のポイント

・目の不自由な人

- つえを持つ手と反対側のひじのあたりに軽く触れるか、腕や肩をかし、半歩くらい前をゆっくり進みます。
- 階段などの障害物を説明しながら進みましょう。



・外国人

- 身ぶり手ぶりで話しかけ、孤立させないように。



・車いすを利用している人

- 階段では2人以上で援助を。上りは前向き、下りは後ろ向きで移動します。
- 救援者が1人の場合はおんぶひもなどを利用し、おぶって避難を。



check ノート

地域の自主防災クラブの名称を確認し、書いておきましょう。要援護者のいるご家庭で支援者が決まっている場合は、支援者の方の名前と連絡先を書いておきましょう。

自主防災クラブ	なまえ	
支援者	なまえ	れんらくさき

いざというときの応急手当

出血がひどかったら

傷口を圧迫する(圧迫止血)

出血している部分にガーゼやタオルを当て、その上から手のひらで圧迫する。また、感染を防ぐため、できる限り、ビニール手袋やビニール袋を使用するのが望ましい。

傷口を心臓より高くする

傷口は心臓よりも高い位置まで上げましょう。

止血法



骨折の疑いがあったら

動かさないようにして、傷や出血の手当を

患部を固定する

副木を当て、骨折した部分の上と下の関節を固定して、骨折したところが動かないようにする。手近で代用できるものを使う。

安静にして、早めに医療機関へ

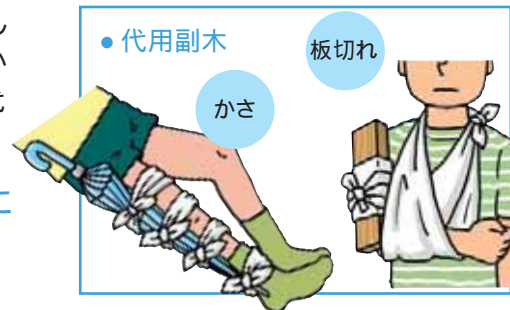
骨折の見分け方

- けがをしたところが不自然に変形している。
- 腫れて、痛みが激しい。
- 骨が突き出ている。疑わしいときは、骨折したものとして手当を。

代用副木

板切れ

かさ



やけどをしたら

早く水で冷やす

できるだけ早く、やけどした部分を水で冷やす。痛みや熱さを感じなくなるまで十分冷やすのがコツ。

患部にガーゼを当てがう

冷やした後は、やけどした部分を清潔なガーゼ、または布などで軽く包み、その状態で医療機関へ。

水疱(水ぶくれ)をつぶさないように

水疱ができたときは、なるべくつぶさないようにする。

手足のやけどの冷やし方

流水を直接当てる刺激が強すぎる場合、流しっぱなしの水道の下に洗面器などを置き、そこに浸ける。

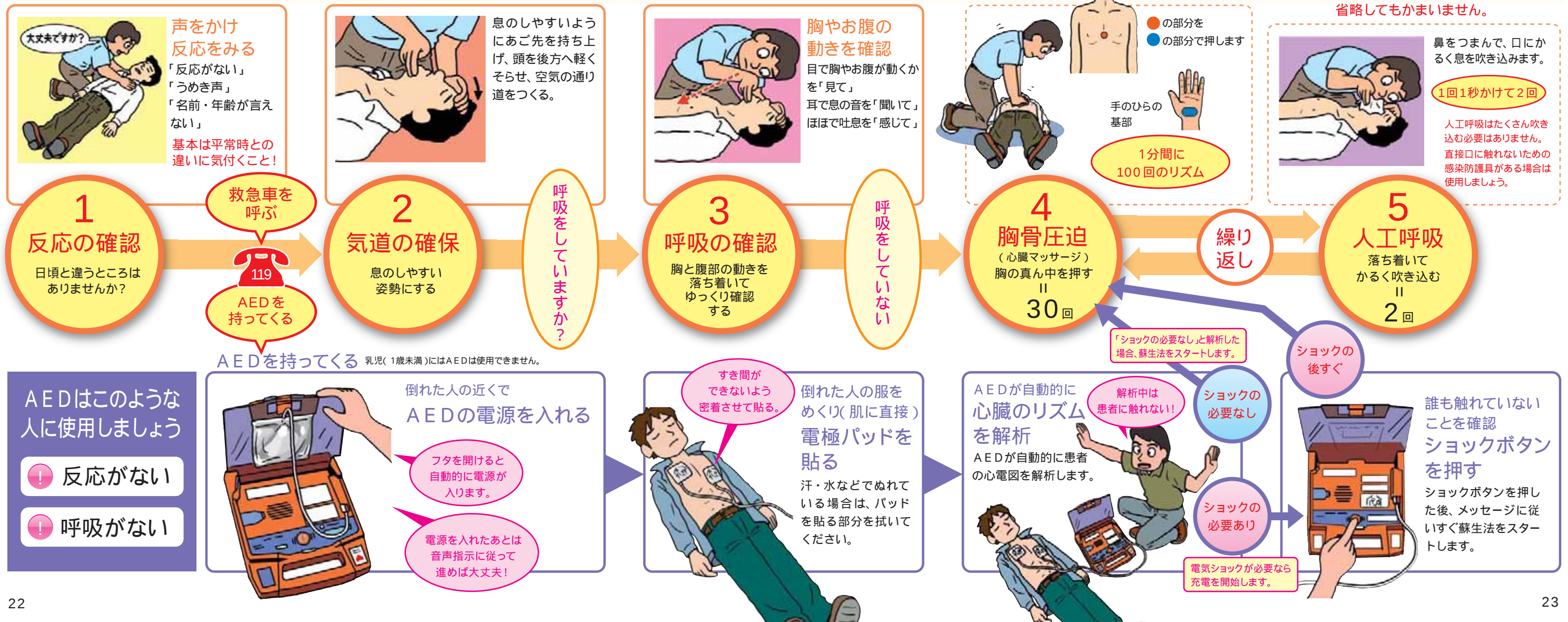


衣服を着ているときの冷やし方

衣服を着たまゝの状態です。水をかけながら注意して、脱がす。脱がせにくい場合は、はさみで衣服を切る。また皮膚がゆ着している場合は、無理にはがすのはやめる。



脳を守る5つのポイント!



準備しておきたい非常持出品は？



非常持出品は家族構成を考えて必要な分だけ用意し、避難時にすぐに取り出せる場所に保管しておきましょう。災害発生時に最初に持ち出す非常持出品と、災害から復旧するまでの数日間を支える非常備蓄品を分けて用意しておきましょう。

最低限そろえておきたいもの

非常持出品

懐中電灯

できれば1人にひとつ用意。
予備の電池と電球も忘れずに。



携帯ラジオ

小型で軽く、AMとFMの両方を聞けるものを用意。予備の電池は多めに用意を。



非常食・水

カンパンや缶詰など、火を通さずに食べられるものを。水はペットボトルが便利。乳幼児がいる場合には粉ミルクなども忘れずに。



貴重品

現金、預貯金通帳、印鑑、健康保険証・住民票のコピーなど。現金は10円硬貨も（公衆電話の利用に便利）。



救急医薬品

キズ薬、ばんそうこう、解熱剤、かぜ薬、胃腸薬、目薬など。常備薬があれば忘れず用意を。



その他

ヘルメット（防災ずきん）、上着・下着、タオル、軍手、紙の食器、ライター（マッチ）、缶切り、栓抜き、ろうそく、ナイフ、ビニール袋、ティッシュ、ビニールシート、生理用品、紙おむつやほ乳びんなど。



災害時に備えるために

非常備蓄品

食 品

缶詰やレトルト食品、ドライフーズや栄養補助食品、調味料など。食料は非常食3日分を含む数日分を最低限備蓄しておくように。



水

飲料水は大人1人当たり、1日3ℓが目安。少なくとも3日分の用意を。ペットボトルのほか、ポリ容器にも水をためておくと便利。



燃料・その他

卓上コンロや固形燃料、予備のガスボンベのほか、毛布、寝袋、洗面用具、ラップ、使い捨てカイロ、ロープ、パール・スコップなどの工具、マスク、トイレトペーパー、新聞紙、簡易トイレ、予備のめがね、バイク・自転車、ドライシャンプーなどがあると便利。



準備をしておかないとどうなる？

大災害が発生した場合、水道施設などが使用できなくなったり、道路の損壊などにより防災機関による救援活動がすぐにできない可能性もあります。災害発生後の数日間は自足できるよう準備しておきましょう。



非常持出品チェックリスト

非常持出品

品 名	点検日チェック欄	品 名	点検日チェック欄
☐ 非常食（カンパン、缶詰など）		☐ 救急医薬品（キズ薬、ばんそうこう、解熱剤、かぜ薬、胃腸薬、目薬など）	
☐ 飲料水		☐ 常備薬	
☐ 携帯ラジオ（予備の電池）		☐ 貴重品（預貯金通帳、印鑑など）	
☐ 懐中電灯（予備の電池・電球）		☐ 現金	
☐ ろうそく		☐ 健康保険証のコピー	
☐ ヘルメット（防災ずきん）		☐ 住民票のコピー	
☐ ライター（マッチ）			
☐ ナイフ、缶切り、栓抜き			
☐ ティッシュ			
☐ タオル			
☐ ビニール袋			
☐ 上着			
☐ 下着			
☐ 軍手			

非常備蓄品

品 名	点検日チェック欄	品 名	点検日チェック欄
☐ 食品（缶詰、レトルト食品、ドライフーズや栄養補助食品など）		☐ ウエットティッシュ、トイレトペーパー	
☐ 食品（調味料、スープ・みそ汁など）		☐ 使い捨てカイロ、マスク、新聞紙、裁縫セットなど	
☐ 食品（チョコレート、のどあめ、梅干など）		☐ 簡易トイレ	
☐ 水（1人当たり1日3ℓ）		☐ 予備のめがね、予備の補聴器など	
☐ 燃料（卓上コンロ、固形燃料、予備のガスボンベなど）		☐ 自転車	
☐ 毛布、タオルケット、寝袋など		☐ 工具類（ロープ、パール・スコップなど）	
☐ 洗面用具（歯ブラシ、石けん、タオル、ドライシャンプーなど）			
☐ 鍋、やかん			
☐ 簡易食器（わりばし、紙皿、紙コップなど）			
☐ ラップ、アルミホイル			

こんな用意も必要です

乳幼児のいる家庭で
用意するもの

ミルク、ほ乳びん、離乳食、スプーン、おむつ、洗浄綿、おんぶひも、バスタオルまたはベビー毛布、ガーゼまたはハンカチ、バケツ、ビニール袋、石けんなど。

妊婦のいる家庭で
用意するもの

脱脂綿、ガーゼ、サラシ、T字帯、洗浄綿および新生児用品、ティッシュ、ビニール風呂敷、母子手帳、新聞紙、石けんなど。

要介護者のいる家庭で
用意するもの

着替え、おむつ、ティッシュ、障害者手帳、補助具等の予備、常備薬など。



避難するときの注意点

災害が発生し、家屋内にとどまることが危険な状態になった場合は、落ち着いてすばやく避難する必要があります。その際には、子どもや高齢者などの災害時要援護者の保護を念頭に置き、近所の一人暮らし高齢者世帯などにも声をかけるなど近隣で協力することが大切です。

避難に対する基本的な考え方

避難は自ら判断を

災害が迫ったとき、置かれた状況は一人ひとり違います。それぞれが自ら判断し、適切な行動を取らなければなりません。



- 例えば
- 土砂災害の危険がある地域に住んでいる
 - 堤防の決壊で家屋消失・浸水の危険がある地域に住んでいる
 - 子どもや高齢者など家族に要援護者がいる

とにかく早期の避難を心がけてください

命を守る最低限の行動を

危険な状況のなかでの避難はできるだけ避け、安全の確保を第一に考えます。危険が切迫している場合は、指定された避難場所への移動(水平避難)だけでなく、命を守る最低限の行動が必要な場合もあります。



- 例えば
- 夜間や急激な降雨で避難路上の危険箇所がわかりにくい
 - ひざ上まで浸水している(50センチ以上)
 - 浸水は20センチ程度だが、水の流れる速度が速い
 - 浸水は10センチ程度だが、用水路などの位置が不明で転落のおそれがある

垂直避難：屋外への移動は危険です。浸水による建物倒壊の危険がないと判断される場合には、自宅や近隣建物の2階以上へ緊急的に一時避難し、救助を待つことも検討してください

避難に関する

3つの情報

災害の危険が迫って居住者の避難が必要になった場合に、避難に関する情報を発令されます。3種類の情報は状況の深刻度に応じて出され、住民の皆さまは各情報に応じた避難行動が求められます。

1 避難準備(要援護者)情報



- 人的被害の発生する危険性が高まった状況です。
- 避難するのに時間がかかる高齢者などの要援護者やその支援者は避難を始めます。
- 通常の避難行動ができる人は、家族との連絡、非常持出品の用意など避難の準備を始めます。

2 避難勧告



- 人的被害の発生する危険性が明らかに高まった状況です。
- すべての住民は指定された避難場所に避難を始めます。

3 避難指示



- 人的被害の発生する危険性が非常に高まった状況、あるいはすでに人的被害が発生した状況です。
- 避難中の住民は直ちに避難を完了してください。
- まだ避難していない住民は直ちに避難します。万一避難する余裕がなければ、命を守る最低限の行動を取ります。

→上記「命を守る最低限の行動を」参照

避難情報を確実に入手しましょう

避難に関する情報は、熊本市がもつ広報手段によって、またテレビやラジオなどを通して住民に伝達されます。



熊本市から市民の皆さまへの主な避難情報の広報手段

防災行政無線から	市ホームページ
消防機関から	広報車から
熊本市緊急告知ラジオ	テレビ・ラジオから
熊本市災害情報メール	注意 携帯メールでの情報入手は事前に熊本市のサイトにアドレス登録が必要な場合があります。(56ページ参照)

安全に避難するために

事前に準備を

ふだんから避難場所までの安全な経路などを確認しておきましょう。



持ち物は最小限に

荷物は背負い、両手を使えるようにしましょう。



動きやすく安全な服装で

ヘルメットで頭部を保護しましょう。靴はひもでしっかりしめられる運動靴を。



車は使わない

車は数十センチの浸水で浮いてしまいます。他の避難者や緊急車両のさまたげにもなり、危険です。



隣近所で声を掛け合って

避難は2人以上で。隣近所を誘って集団で避難しましょう。



マンホールや側溝に注意を

急激な大雨が下水管に流れ込むことによって管内の圧力が上昇し、マンホールのふたが開いてしまう場合があります。浸水が進むなか、マンホールや側溝にはまってしまうと大変危険です。



避難所では気象情報に注意を

避難場所では相互に協力を。被害の状況や今後の気象状況を確認します。



深さに注意

歩行可能な水深は約50cm。水の流れる場合は20cm程度でも危険です。



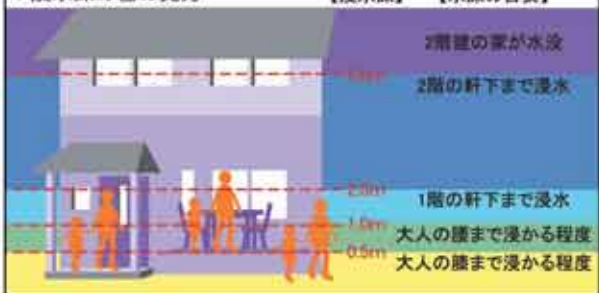
熊本市の緊急告知ラジオ

check ノート

避難情報の入手手段として、どれが使えるか確認しておきましょう。

- | | | |
|-------------------------------|-------------------------------------|------------------------------|
| ☐ 消防機関 | ☐ 熊本市防災情報メール | ☐ その他 |
| ☐ 広報車 | ☐ テレビ | |
| ☐ 防災無線 | ☐ ラジオ | |

【浅水深】 【水深の目安】



凡 例			
表 記	名 称	表 記	名 称
	浸水が 0.5m未満の区域		警 察 署
	浸水が 0.5～1.0mの区域		消 防 署
	浸水が 1.0～2.0mの区域		市 役 所
	浸水が 2.0～5.0mの区域		救急指定病院
	浸水が 5.0m以上の区域		防災備蓄倉庫
	浸水実績 (H7～H18)		指定避難場所
	市 町 界		避難ブロック名
	町 丁 界		避難 方 向
	避難ブロック界		アンダーパスおよび 道路浸水実績箇所

車での避難地域

●地図上の斜線//の地域にお住まいの方は避難場所から遠いため、車で避難することができません。避難情報が発表された場合、車で以下の避難場所まで避難してください。町により、避難場所が異なります。ご注意ください。

避難ブロック	町丁名	避難場所
3 4 9	松尾町上松尾	三和中学校 アクアドームくまもと 鶴田東小学校 鶴田中学校 カ合小学校 カ合中学校
	松尾町近津	
	沖新町	
	小島下町	
	島口町	
	海路口町	
	内田町	
	奥古閑町	
	川口町	
	銭場町	
10	中無田町	権田館
	美登里町	
	富合町彦崎	
	富合町碓江	
	富合町西田尻	

●想定される最大の浸水が起きた場合、松尾西小学校、奥古閑小学校、川口小学校、天南運動施設体育館、天南公民館、天南中学校、天南農業協同組合、天南小学校は閉鎖されます。

通学ブロック	名称	通学場所	電話番号	通学対象の町名
1	河内公民館	河内町船津791	278-0123	河内町河内、河内町白旗、河内町船津
	河内小学校	河内町船津2505-2	278-0031	
	河内小学校西浜分校	河内町白旗1018-8	278-0100	
	河内中学校	河内町船津2470-1	278-0030	
	西部市民センター	小島2丁目7-1	329-8503	
2	小島小学校	小島7丁目9-1	329-0912	小島町、小島町南、小島1～2丁目、中島町、中島町南、船津町上松原、松尾町北津
	城西中学校	小島8丁目17-1	329-2792	
	中島小学校	中島町538	329-7120	
3	松尾西小学校	松尾町上松原4456-1	329-7100	城山大塚1～2丁目、城山下代1丁目、城山下代3～5丁目、城山南3～4丁目、城山南部1～2丁目
	松尾東小学校	松尾町上松原2880	329-7235	
	三和中学校	上高橋1丁目4-1	329-0518	
	城山小学校	城山大塚1丁目23-1	329-4866	
	高橋小学校	高橋町1丁目6-1	329-8101	
4	船田西小学校	砂原町115	227-0003	富貴町、鎌瀬町、白石町、砂原町、鎌瀬町、堀口町、八分町、堀口町、旗代町、堀口町、八分町の一部
	船田中学校	旗代町72	227-0004	
	船田公民館	会富町1333-1	227-1195	
	船田西小学校	笠建町1005	227-0028	
5	船田南小学校	鎌瀬町999	357-9240	吉志1丁目、吉志3～4丁目、吉志5～6丁目
	方合小学校	刈草2丁目10-1	357-9417	
	方合中学校	鳥羽5丁目8-1	358-6454	
	日吉小学校	近見1丁目9-30	325-0072	
	日吉東小学校	近見5丁目1-1	323-3264	
6	日吉中学校	近見5丁目5-1	351-6442	近見5～8丁目、日吉2丁目、南高江1丁目
	田辺小学校	出仲町6丁目3-30	378-2818	
	託麻中学校	出仲町6丁目4-1	378-0538	
	田辺南小学校	田井島3丁目12-1	378-6405	
7	幸田市民センター	幸田2丁目4-1	378-0172	田辺町大字鳥羽、御幸本町町、御幸本町1～2丁目、御幸町無田町、御幸町1～4丁目、御幸町南町、御幸町南5丁目、御幸町南6丁目、御幸町南7丁目、鳥羽1丁目
	御幸小学校	御幸町7丁目16-1	379-1921	
	川尻小学校	川尻4丁目1-1	357-9100	
	城南中学校	八幡5丁目1-1	357-7175	
8	南部市民センター	南高江6丁目7-35	358-1205	南高江1～7丁目、元三町、元三町1～3丁目、元三町5丁目、八幡1～3丁目、中瀬町町の一部
	城南小学校	南高江4丁目2-70	358-2380	
	美古間小学校	美古間町4072	223-0045	
	天明中学校	美古間町2146-1	223-0038	
	天明運動施設体育館	美古間町1877	223-0933	
9	天明公民館	美古間町2035	223-0118	海部町、内田町、美古間町、川口町、鎌瀬町、中島町、南高江町
	天明商業研修所	美古間町1905-1	223-1111	
	川口小学校	川口町3045	223-0025	
	鎌瀬小学校	鎌瀬町990	223-0028	
	中継小学校	美芝里町800	223-1415	
10	富合小学校	富合町清瀬472	357-4511	富合町研江、富合町清瀬、富合町石堤、富合町古岡、富合町国崎、富合町堀江、富合町志々木、富合町田尻、富合町青田尻、富合町南田尻
	富合中学校	富合町平田56	357-4343	
	鎌瀬館	富合町清瀬405-1	358-4400	
	アスバル富合	富合町清瀬405-1	357-4580	
	アクアドームくもと	刈草町2丁目1-1	385-2711	

この避難場所一覧と地図内の避難方向を示す矢印は、中学校区を基本とした避難先の目安です。
実際の避難の際は状況に応じて避難場所を選んで避難してください。

(平成23年3月作成)

縮尺 1:56,000

松尾町上松尾、松尾町近津、小島下町、
沖飯町、島口町、海路口町、内田町、
赤古間町、川口町、鉢巻町、中無田町、
美倉町、富合町芽崎、富合町菊江、
富合町西田は避難所までの距離が
離れています。
この地区にお住まいの方は、特に、
早めの避難をお願いします。

【高潮避難地区とは】

高潮避難地図とは、台風の通過とともに海面が吸い上げられ、強い風によって海水が海岸へ吹き寄せられて海面が異常に上昇し、海水が堤防を越えてしまった場合の浸水予測結果に基づいて、浸水する範囲とその程度（深さ）及び各地区の避難場所を示した地図です。

浸水の予測は、昭和34年9月の伊勢湾台風と同規模(中心気圧約930hPa、最大風速45.4m/s)の台風が、平成11年9月に有明海と八代海で強風・高潮による大きな被害をもたらした台風18号のコースを通過するものとしており、この地域での最も危険な状況を想定したものです。

熊本市地震ハザードマップ 揺れやすさ 震度

揺れやすさ 震度 マップとは

このマップは熊本市に影響をあたえる地震が発生した場合、どのくらいの震度が予測されるかを示したものです。市域に影響をあたえる地震として①立田山断層地震、②布田川・日奈久断層帯地震、③どこにでも起こりうる直下の地震の3つを想定しています。

マップの作成方法

設定

熊本市域に影響の大きいと考えられる地震を選び、震源となる断層の規模や位置、形状などの情報を設定します。

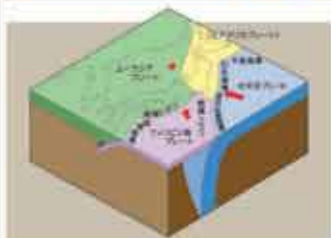
計算

それぞれの地震について、規模や震源となる断層までの距離と揺れの強さの関係、地盤のやわらかさ等の情報を基に「地表面付近の揺れの大きさ」を計算します。

地震発生の仕組み

地球の表面は、プレートと呼ばれる厚さ数10kmの岩盤で覆われています。プレートは1年に数cmくらいの速さで動いており、この動きが地震を発生させるエネルギーとなります。地震の起こり方は大きく2つに分けられます。ひとつは、プレートの境界で発生する地震、もうひとつはプレートの内部で発生する地震です。プレートの境界で発生する地震は、海溝型地震とよばれ、地震調査研究推進本部のホームページで詳しく紹介されています。

地震調査研究推進本部 URL http://www.jishin.go.jp/main/yosokuchizu/kaiko/k25_nankai.htm



プレートの境界で発生する地震

日本列島はユーラシアプレートと北アメリカプレートに乗っており、太平洋の南海トラフでこれらのプレートの下に、太平洋プレートとフィリピン海プレートという別のプレートが沈み込んでいます。このプレートの沈み込みによって岩盤にひずみのエネルギーがたまり、それが限界に達すると、ひずみを開放しようとする強い力が働いて岩盤が破壊され、地震が起きます。平成23年3月11日の東日本大震災は、プレートの境界域における海溝型地震でした。

プレートの内部で発生する地震

プレートが動くことによって、プレートの内部にもひずみが蓄積しています。そのひずみでプレート自身がひびわれたりずれたりしたときにも地震が発生します。プレートの内部で発生する地震には、プレートの深いところで発生するものと浅い活断層で発生するものがあり、平成7年の阪神・淡路大震災はプレートの内部における内陸型地震でした。

① 立田山断層地震

●地震の概要

立田山断層地震は、立田山北麓から熊本市街地の中心を北東から南西方向に斜断している立田山断層(約15km)が動くことを想定しています。本断層は、1889年(明治22年)に起こった熊本地震との関係も指摘されていますが、詳しいことはわかっていません。

マグニチュード
M6.5
今後30年以内の
地震発生確率
不明

※立田山断層地震は、地震調査研究推進本部における対象断層でないため発生確率が算定されていません。

揺れやすさ(震度)
震度6強
震度6弱
震度5強
震度5弱
震度4以下

凡例
役所
高速道路
国道
主要道路
新幹線
U R

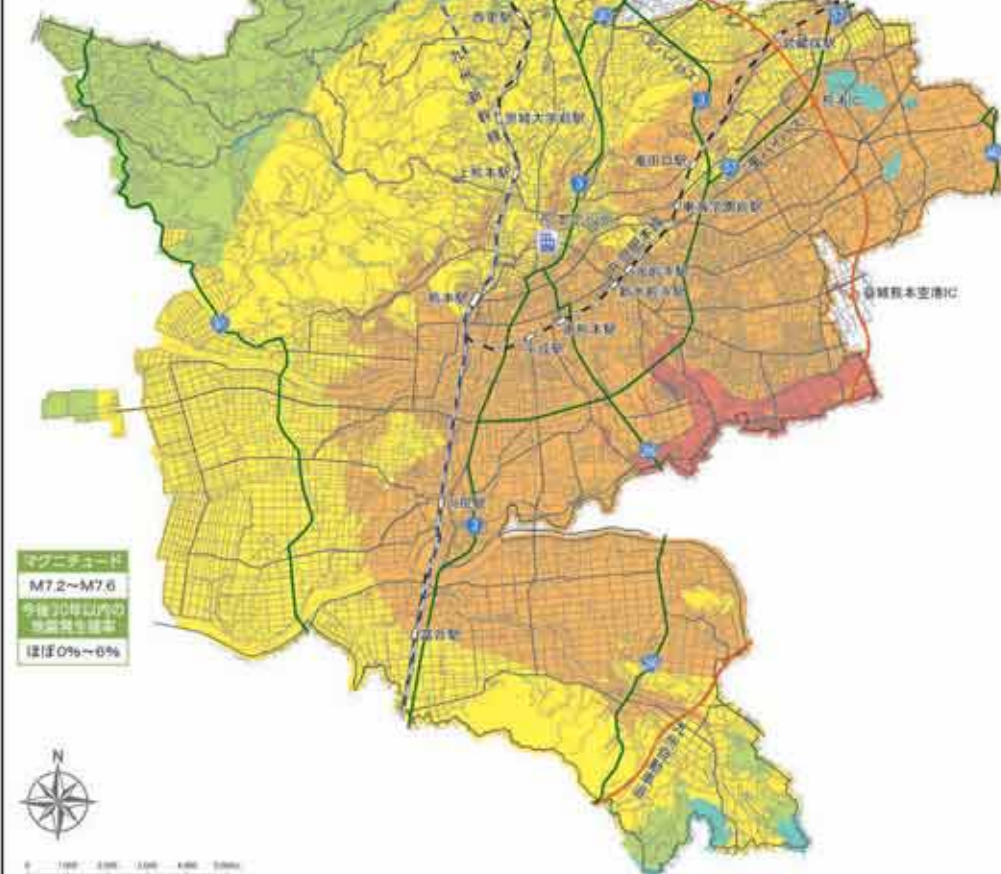


② 布田川・日奈久断層帯地震

●地震の概要

布田川・日奈久断層帯地震は、阿蘇外輪山の西側斜面から八代海の南部まで全体としてほぼ北東-南西方向に延びる断層帯(約101km)が動くことを想定しています。

熊本市南部を通る断層帯北東部は、平均して1万1千年~2万7千年程度の間隔で活動した可能性があります。今後30年以内の地震発生確率は、断層帯北東部でほぼ0%、断層帯中部でほぼ0%~6%と極めて低いのですが、発生した場合は、市南東部で震度6強を示します。



マグニチュード
M7.2~M7.6
今後30年以内の
地震発生確率
ほぼ0%~6%



0 1000 2000 3000 4000 5000m

③ どこにでも起こりうる直下の地震

●地震の概要

まだ確認されていない活断層が地下に潜在している可能性があります。そこで、熊本市直下の仮想断層が動くことを想定しています。この震源の深さは、地下4kmとしています。今後30年以内の地震発生確率は不明ですが、発生した場合は、平野部で震度6強を示します。

マグニチュード
M6.9
今後30年以内の
地震発生確率
不明

※どこにでも起こりうる直下の地震は、実在しない未知の断層を想定しているため、発生確率は不明扱いとしています。



0 1000 2000 3000 4000 5000m

熊本市地震ハザードマップ 地域危険度 建物全壊率

地域危険度 建物全壊率 マップとは

このマップは、熊本市に影響をあたえる地震が発生した場合、どのくらいの建物が全壊するのか、地域ごとに予測されたものを示しています。市域に影響をあたえる地震として①立田山断層地震、②布田川・日奈久断層帯地震、③どこにでも起こりうる直下の地震の3つを想定しています。

マップの作成方法

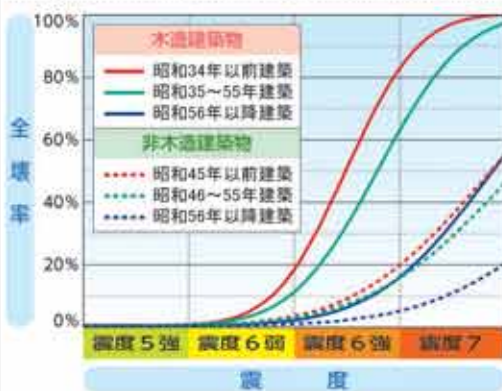
整理

熊本市域の建物の分布状況(平成22年1月1日現在)を、1辺約50mのメッシュを単位として整理します。建物の耐震性は建築年代と構造によって異なるため、建物分布は建築年と構造を区分して把握します。

計算

過去の被害地震記録から求められた震度と建物の全壊率の関係を適用し、メッシュごとの全壊率を計算します。各メッシュの震度は、揺れやすさマップに示した震度を用います。

震度と建物全壊率の関係



左のグラフは過去の地震による建物被害の統計から、震度と建物(構造・年代別)の全壊率の関係を導き出したものです。古い耐震基準をもとに建てられた建物ほど全壊率が高く、特に震度6弱～6強から急激に高くなり始めます。震度7では昭和56年5月以前の旧耐震基準により建てられた木造建築物の全壊率は90%以上になると想定されます。

※「地震防災マップ作成技術資料(内閣府/平成17年)」より作成
※このグラフは過去の地震による建物被害の統計値から算出されたものです。個々の建物の耐震性を建築年だけで一律に評価するものではありません。

「全壊」とは

全壊とは、自然災害による建物被害の程度の中で、最も大きく被害を受けた状態を示します。

① 外観による判定

建物の全体、もしくは一部の階がすべて倒壊している。

② 傾斜による判定

外壁や柱の傾斜が1/20以上。

③ 住宅の損害割合

屋根、壁(外壁)及び基礎の損傷程度等(及び傾斜)から算出した損害の割合が50%以上。

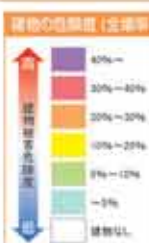
出典: 災害に係る住家の被害調査基準適用設計 平成21年5月 内閣府(防災担当)

① 立田山断層地震

●建物の危険度(全壊率)の概要
立田山断層地震が発生すれば、熊本市全域において5%までの建物が全壊するものと予想されます。ただし、立田山断層付近で地盤の弱い地域においては、最大でも10%～20%の建物が全壊する地域が予想されます。

マグニチュード
M6.5
今後30年以内の
地震発生確率
不明

※立田山断層地震は、地震調査研究推進本部における対象断層でないため発生確率が算定されていません。

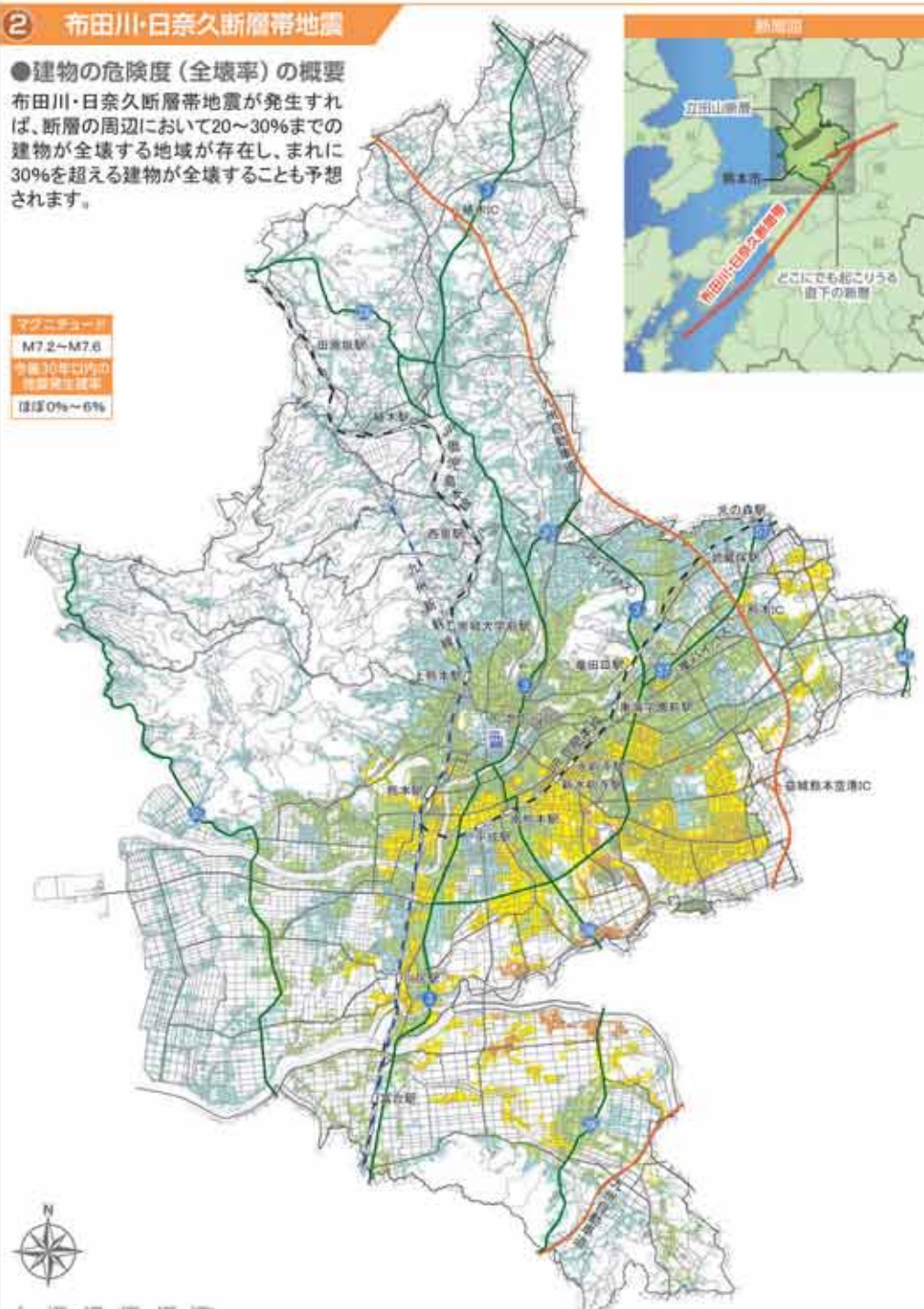


0 1000 2000 3000 4000 5000

② 布田川・日奈久断層帯地震

●建物の危険度(全壊率)の概要
布田川・日奈久断層帯地震が発生すれば、断層の周辺において20～30%までの建物が全壊する地域が存在し、まれに30%を超える建物が全壊することも予想されます。

マグニチュード
M7.2～M7.6
今後30年以内の
地震発生確率
0%～6%



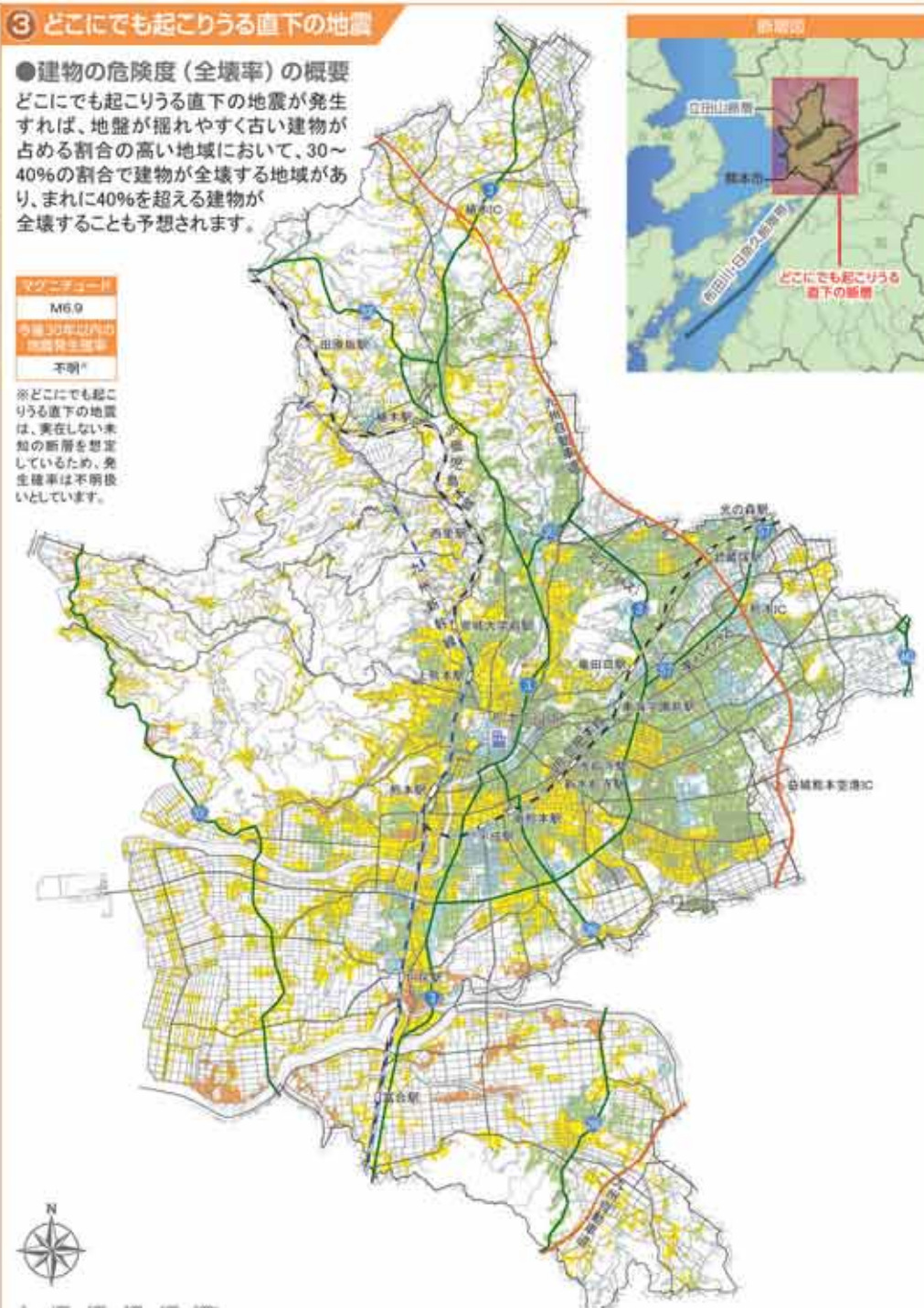
0 1000 2000 3000 4000 5000

③ どこにでも起こりうる直下の地震

●建物の危険度(全壊率)の概要
どこにでも起こりうる直下の地震が発生すれば、地盤が揺れやすく古い建物が占める割合の高い地域において、30～40%の割合で建物が全壊する地域があり、まれに40%を超える建物が全壊することも予想されます。

マグニチュード
M6.9
今後30年以内の
地震発生確率
不明

※どこにでも起こりうる直下の地震は、実在しない未知の断層を想定しているため、発生確率は不明扱いとしています。



0 1000 2000 3000 4000 5000

防災情報の入手方法を知りましょう

熊本市 災害情報メールとは

災害時における市民の皆さまの行動支援と防火・防災等に活用していただくことを目的として、携帯電話などのメールを活用し、市民の皆さまへ各種災害情報や気象情報などをお知らせする「熊本市災害情報メール」を平成18年12月15日より実施しています。

- 緊急防災情報** 避難指示・勧告などの情報を配信します(この情報は重要な情報ですので選択をお願いします)。
- 防災情報** 大雨情報や避難所開設情報など防災に関する情報及び光化学スモッグに関する情報を配信します。
- 気象情報** 地震、津波、火山、台風、注意報・警報の情報(地震、火山、注意報・警報の情報は配信レベルを設定できます)。
- 消防情報** 火災情報とその他の出動(救急除く)情報を配信します(火災情報とその他の出動情報をそれぞれ小学校区ごとに選択できます)。(注1)
- お知らせ情報** 防災・消防に関する平常時のお知らせや災害時等における情報を配信します。

(注1)本サービスの消防情報は、富合町・城南町・植木町を除く熊本市内の情報となります。

申込方法

熊本市災害情報メールを利用するには仮登録の手続きが必要です。

携帯電話またはパソコンから「entry-kumamoto@fastalarm.jp」へ空メールを送ると、登録用URLがメールで届きますので、そのURLにアクセスすると、登録が完了します。

迷惑メール防止対策の設定をされている方は、登録前にメール受信が可能なように設定を行ってください。

バーコードリーダ機能付きの携帯電話であればバーコードをご利用ください。



その他の防災情報アクセス一覧

熊本市ホームページ	市のホームページに防災に関する緊急情報を掲載します。 http://www.city.kumamoto.kumamoto.jp/
熊本県防災情報ホームページ	「熊本県統合型防災情報システム」や「県内の危険箇所(土砂災害情報マップ・山地災害危険箇所マップ)」などの各種防災に関する情報を閲覧できます。 http://cyber.pref.kumamoto.jp/bousai/
熊本県統合型防災情報システム(携帯向け)	携帯電話からでも気象、雨量、土砂災害危険度、河川水位などの情報を閲覧できます。 http://www.mobile.bousai.pref.kumamoto.jp
熊本県防災情報メールサービス	気象警報・注意報、土砂災害警戒、竜巻注意、地震、津波、火山噴火、河川水位などの情報を携帯電話などにメールで受信できます。(事前登録制) 登録用ホームページ http://www.anshin.pref.kumamoto.jp/
熊本地方気象台ホームページ	注意報・警報など様々な気象に関する情報が閲覧できます。 http://www.jma-net.go.jp/kumamoto/
国土交通省九州地方整備局防災情報ホームページ	気象・河川・道路に関する情報が閲覧できます。 http://www.qsr.mlit.go.jp/bousai_joho/
国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所ホームページ	熊本県内の白川・緑川の現在の様子、各地域の雨量・水位や、国道3号、57号、208号の現在の様子などを閲覧することができます。 http://www.qsr.mlit.go.jp/kumamoto/index.html
デジタル放送	各局の地デジ放送受信中にリモコンの"d(データ)"ボタンを押すと最新の気象情報の閲覧ができます。

メールサービスの受信料は有料となります。

(平成23年8月現在)

緊急時のテレホンガイド

警察は
110番

火事・救急は
119番

海上の事故・事件は
118番

災害用伝言ダイヤル「171」

TEL

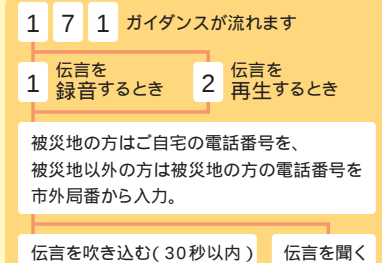
NTTでは震度6弱以上の地震発生時など、被災地への安否確認電話が集中する場合に「災害用伝言ダイヤル」サービスを開始します。事前契約などは不要で、サービス開始はテレビやラジオで告知されます。171番にダイヤルするとガイダンスが流れるので、それに従って利用します。「忘れていない(171)」と覚えましょう。

WEB

「NTT東日本」<http://www.ntt-east.co.jp/saigai/voice171/goriyou.html>

「NTT西日本」<http://www.ntt-west.co.jp/dengon/way/index.html>

災害用ブロードバンド伝言板(web171)は、インターネットを利用して被災地の方の安否確認を行う伝言板です。詳しくはNTTのHPをご覧ください。

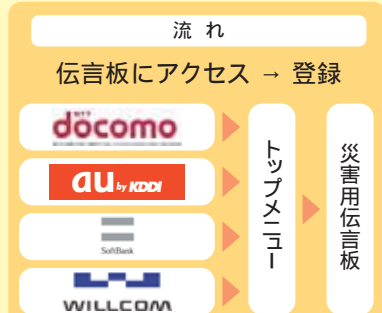


災害時は硬貨用公衆電話のほうがつながりやすい場合があります。

携帯電話の災害用伝言板

携帯電話各社では、災害時に家族・親類・知人などの安否確認のための災害用伝言板サービスを提供しています。大規模災害発生時には、災害発生地域の方は、各社ケータイサイトに開設された災害用伝言板にて、安否情報の登録、確認、閲覧が行うことができます。

- くわしくは各社HPをご参照ください。
- 「DoCoMo」<http://www.nttdocomo.co.jp/info/disaster/>
- 「au」http://www.au.kddi.com/notice/saigai_dengon/index.html
- 「SoftBank」<http://mb.softbank.jp/scripts/japanese/information/dengon/index.jsp>
- 「WILLCOM」<http://www.willcom-inc.com/ja/info/dengon/>



ライフライン関連機関

名 称	住 所	電 話
熊本市上下水道局	熊本市水前寺6-2-45	096-361-5448
九州電力(株)(熊本東営業所)	熊本市上水前寺1-6-36	0120-986-604
九州電力(株)(熊本西営業所)	熊本市上熊本2-12-10	0120-986-603
九州電力(株)(宇城営業所)	宇城市松橋町松橋1325	0120-986-605
九州電力(株)(玉名営業所)	玉名市大字亀甲字前田90-1	0120-986-601
NTT西日本(株)(熊本支店)	熊本市桜町3-1	113
西部ガス(株)(熊本支社)	熊本市萩原町14-10	096-370-8600

地震対策

津波対策

風水害対策

火災対策

自主防災

応急手当

非常持出品

避難の仕方

ハザードマップ

防災情報

防災関係機関

名 称	住 所	電 話
熊本市役所	熊本市手取本町 1-1	096-328-2111
熊本市水防本部	熊本市手取本町 1-1	096-328-2222
熊本市災害対策本部	熊本市手取本町 1-1	096-311-1111
熊本市消防局	熊本市大江 3-1-3	096-363-0119
宇城広域連合消防本部 (富合・城南町管轄)	宇土市新松原町 159-1	0964-22-0554
山鹿植木広域消防本部 (植木町管轄)	山鹿市南島 1270-1	0968-43-1289

家族の緊急連絡先

[illegible]

避難場所

一時避難場所
家族が離ればなれになったときの 集合場所

親せき・知人の連絡先

連絡先	電 話	住 所	メモ 家族との 関係など

家族の
救急用
データ

氏 名	生年月日	血液型	アレルギー	常備薬	病 気



この冊子は環境に配慮し、植物油インキを使用しています

禁無断轉載 © 東京法規出版

L17